

# 旭川市農耕地土壤図(1/5万)

(地力保全基本調査、上川中部地域)

1995年 3 月

北 海 道 上 川 支 庁  
北海道立上川農業試験場

旭川市の土壌調査報告書は、昭和30年代の施肥改善土壌調査(旧永山町)、地力保全基本調査で旭川市東旭川町(昭和40年)、同旭川市神楽町・上川郡東神楽町、同北海道耕地土壌図〔Ⅲ上川地域〕(20万分の1)、等があるが、現在の旭川市全域を5万分の1縮尺で画いた土壌図は作成されていなかった。

この度、これら既存の資料と道営土地改良事業計画樹立に先だって行われた多数の土壌調査資料をまとめて、地力保全基本調査様式に従って本報告書と土壌図を作成した。とりまとめに当たり、各報告書の土壌統はそのまま生かすように心がけ、土壌統の合併は避けるようにした。一部の統名については同名で異土壌型のものが有ったので新しい統名を命名した。

(北海道立上川農業試験場 土壌肥料科)

## 目 次

I. 土 壌 統 一 覧 .....	1	30. 東 鷹 栖 統 ( HG ) .....	63
II. 土 壌 統 の 説 明 .....	5	31. 東 鷹 栖 南 統 ( HS ) .....	65
(水田利用の土壌統)		32. 鷹 栖 中 央 統 ( Tac ) .....	67
1. 東 桜 岡 統 ( His ) .....	5	33. 藤 野 統 ( Fu ) .....	69
2. 共 栄 統 ( Ky ) .....	7	34. 北 永 山 統 ( KN ) .....	71
3. 上 南 部 統 ( KaN ) .....	9	35. 永 山 南 統 ( Nas ) .....	73
4. 北 日 の 出 統 ( Kit ) .....	11	36. 永 山 統 ( Na ) .....	75
5. 下 南 部 北 統 ( SiNN ) .....	13	37. 永 山 東 統 ( NaE ) .....	77
6. 桜 岡 統 ( Sa ) .....	15	38. 射 的 統 ( Sya ) .....	79
7. 瑞 穂 統 ( Mi ) .....	17	39. 豊 里 統 ( ToY ) .....	81
8. 忠 別 統 ( Tu ) .....	19	40. 江 丹 別 統 ( ETN ) .....	83
9. 下 南 部 統 ( SiN ) .....	21	41. 更 新 統 ( Kos ) .....	85
10. 上 兵 村 統 ( Ka ) .....	23	42. 吉 住 統 ( Yo ) .....	87
11. 米 飯 統 ( Pe ) .....	25	(畑、草地、樹園地利用の土壌統)	
12. 千 代 田 統 ( Ti ) .....	27	43. 東 桜 岡 西 統 ( Hiw ) .....	89
13. 瑞 穂 東 統 ( MiE ) .....	29	44. 上 南 部 北 統 ( KaNN ) .....	91
14. 旭 山 統 ( A ) .....	31	45. 東 京 統 ( ToK ) .....	93
15. 桜 岡 南 統 ( SaS ) .....	33	46. 忍 路 統 ( O ) .....	95
16. 日 の 出 統 ( Hi ) .....	35	47. 下 南 部 南 統 ( SiS ) .....	97
17. 旭 正 統 ( Ki ) .....	37	48. 忍 路 東 統 ( OE ) .....	99
18. 忠 別 南 統 ( Tus ) .....	39	49. 沼 倉 統 ( Nu ) .....	101
19. 沼 倉 南 統 ( NuS ) .....	41	50. 八 千 代 ヶ 岡 統 ( Y ) .....	103
20. 中 央 統 ( Co ) .....	43	51. 千 代 ヶ 岡 統 ( T ) .....	105
21. 神 楽 統 ( K ) .....	45	52. 神 居 統 ( KAM ) .....	107
22. 新 区 画 統 ( Si ) .....	47	53. 拓 北 統 ( TAK ) .....	109
23. 聖 和 統 ( Sw ) .....	49	54. 西 里 統 ( Nis ) .....	111
24. 西 瑞 穂 統 ( NM ) .....	51	55. 神 居 古 潭 統 ( KKO ) .....	113
25. 聖 台 統 ( Sd ) .....	53	56. 西 丘 統 ( NSK ) .....	115
26. 北 成 統 ( Hos ) .....	55	III. 参 考 地 点 の 土 壌 断 面 柱 状 図 .....	117
27. 嵐 山 統 ( AR ) .....	57	IV. 代 表 地 点 、 参 考 地 点 の 土 壌 分 析 値 一 覧 .....	119
28. 東 鷹 栖 東 統 ( HE ) .....	59		
29. 正 光 寺 統 ( SJ ) .....	61		

# I. 土壌統および土壌区一覽

## (1) 土 壤 統 一 覽(水田)

統 番 号	地図上 の記号	土壌区名 分布面積	色層序	腐植層序	簡略分級式	礫層・砂礫 層を混在 する砂層	酸 化 沈積物	土 性	
								表層	次層
1	His	東 桜 岡	Y/YR	表層腐植層	II tpr	なし	あり	強粘質	強粘質
2	Ky	共 栄	Y/YR	表層腐植層	II tpf n	なし	なし	強粘質	壤 質
3	KaN	上 南 部	Y/YR	表層腐植層 な	II tpf n	なし	あり	強粘質	強粘質
4	Kit	北 日 の 出	Y/YR	表層腐植層 な	II tn	なし	あり	粘 質	強粘質
5	SiNN	下 南 部 北	Y/Y	表層腐植層 な	II tlf n	なし	なし	強粘質	粘 質
6	Sa	桜 岡	Y/Y	表層腐植層	II tpf n	なし	あり	強粘質	強粘質
7	Mi	瑞 穂	Y/Y	表層腐植層	III dl II tf	あり (20cm以下)	なし	粘 質	砂 質
8	Tu	忠 別	Y/Y	表層多腐植層	III di II tprf	あり (20cm40cm以下)	なし	強粘質	強粘質
9	SiN	下 南 部	Y/Y	表層腐植層	II tdprfn	なし	なし	強粘質	粘 質
10	Ka	上 兵 村	Y/Y	表層腐植層	II tpf n	なし	あり	強粘質	強粘質
11	Pe	米 飯	Y/Y	表層腐植層	II tprf	なし	あり	粘 質	粘 質
12	Ti	千 代 田	Y/Y	表層多腐植	II tdprfn	なし	あり	強粘質	強粘質
13	MiE	瑞 穂 東	Y/Y	表層多腐植層	II tprfn	なし	あり	強粘質	強粘質
14	A	旭 山 1	Y/Y	表層腐植層	II tprf	なし	あり	強粘質	強粘質
15	SaS	桜 岡 南	Y/Y	表層腐植層 な	II tlrfn	なし	あり	粘 質	粘 質
16	Hi	日 の 出	G/G	表層多腐植層	II tprfn	なし	なし	強粘質	強粘質
17	Ki	旭 正	N/N	表層腐植層	III i II tdfn	あり (32cm以下)	なし	壤 質	壤 質
18	Tus	忠 別 南	N/YR	表層多腐植層	III f II tn	あり (50cm以上)	なし	粘 質	粘 質
19	NuS	沼 倉 南	N/G	表層腐植層	II tf	なし	あり	粘 質	砂 質
20	Co	中 央	YR/Y	表層腐植層 な	III dli II pfn	あり (20cm以下)	あり	粘 質	礫
21	K	神 楽	YR/YR	表層腐植層	II plfni	100cm以下	あり	粘 質	砂 質
22	Si	新 区 画	YR/YR	表層腐植層	II prfa	55cm以下	あり	粘 質	粘 質
23	Sw	聖 和	Y/Y	表層腐植層	III p II rfn a	礫混在	あり	強粘質	強粘質
24	NM	西 瑞 穂	YR/Y	表層多腐植層	III p II rf	なし	あり	強粘質	強粘質
25	Sd	聖 台	Y/Y	表層腐植層	III p II rfn i	なし	あり	強粘質	強粘質
26	Hos	北 成	YR/YR	表層腐植層 な	III pf II d	なし	あり	強粘質	強粘質
27	AR	嵐 山	Y/Gr	表層腐植層 な	III p II n	なし	あり	強粘質	強粘質
28	HE	東 鷹 栖 東	YR/YR	表層腐植層 な	II dlfn	あり (40cm)	なし	壤 質	壤 質
29	SJ	正 光 寺	YR/Y	表層腐植層 な	III p II trfn	なし	なし	強粘質	強粘質

泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母材	全国土壌統群名 (全国土壌統番号)	主に分布 する地域
なし	なし	洪積	非固結堆積岩	細粒灰色台地上 07A03	東旭川
なし	なし	水積	非固結堆積岩	中粗粒褐色低地土 12B03	東旭川
なし	なし	水積(扇状堆土)	固結火成岩	細粒灰色台地上 07A03	東旭川
なし	なし	水積	非固結堆積岩	細粒灰色低地土 13A04	東旭川
なし	なし	洪積	軽石質再堆積	細粒灰色台地上 07A03	東旭川
なし	なし	水積	非固結堆積岩	細粒灰色低地土 13A01	東旭川
なし	なし	水積	非固結堆積岩	礫質褐色低地土・斑紋 12F17	東旭川
なし	なし	水積	非固結堆積岩	礫質強グライ土 14C13	東旭川
なし	なし	水積(扇状堆土)	固結火成岩	細粒褐色森林土 06A10	東旭川
なし	40cm以下	水積	非固結堆積岩	細粒グライ土 14D16	東旭川
なし	作土直下より	水積	非固結堆積岩	細粒強グライ土 14A01	東旭川
なし	30cm以下	水積	非固結堆積岩	礫質強グライ土 14C12	東旭川
なし	45cm以下	水積	非固結堆積岩	細粒強グライ土 14A01	東旭川
なし	48cm以下	水積	非固結堆積岩	細粒グライ土 14D19	東旭川
あり 30cm以下	なし	集積	ヨシ・スゲ	グライ土・下層有機質 14G29	東旭川
なし	32cm以下	水積	非固結堆積岩	細粒強グライ土 14A01	東旭川
なし	なし	水積	非固結堆積岩	礫質褐色低地土・斑紋 12F16	東旭川
なし	なし	水積	非固結堆積岩	礫質褐色低地土 12C05	東旭川
なし	作土直下より	水積	非固結堆積岩	中粗粒強グライ土 14B07	東旭川
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	礫質褐色低地土・斑紋 12F17	西神楽
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	細粒褐色低地土 12A02	西神楽
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	礫質褐色低地土 12C05	西神楽
なし	20cm～70cm	水積(河成)	非固結堆積岩	細粒強グライ土 14A0	西神楽
なし	50cm以下	水積(河成)	非固結堆積岩	細粒グライ土 14D15	西神楽
なし	なし	洪積	非固結火成岩	細粒灰色台地上 07A01	西神楽
なし	なし	洪積	非固結堆積岩	細粒灰色台地上 07A01	東鷹栖
なし	25cm以下	洪積	非固結堆積岩	細粒グライ台地上 08A03	東鷹栖、西神楽、 東旭川
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	礫質褐色低地土 12C06	東鷹栖
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	細粒強グライ土 14A01	東鷹栖

統 番 号	地図上 の記号	土壌区名 分布面積	色層序	腐植層序	簡略分級式	礫層・砂礫 層礫を混在 する砂層	酸 化 沈積物	土 性	
								表層	次層
30	HG	東 鷹 栖	YR/Y	表層腐植層	II dp	なし	あり	粘 質	粘 質
31	HS	東 鷹 栖 南	YR/Y	表層腐植層 なし	III p II drf ni	あり (40cm)	あり	強粘質	強粘質
32	Tac	鷹 栖 中 央	YR/Y	表層腐植層	II p II rf	なし	あり	強粘質	強粘質
33	Fu	藤 野	YR/YR	表層多腐植層	III p II tlr f	なし	あり	強粘質	泥 炭
34	KN	北 永 山	Y/YR	表層腐植層 なし	III dn III	なし	あり	粘 質	壤 質
35	Nas	永 山 南	N/YR	表層腐植層	II lfn	なし	あり	粘 質	粘 質
36	Na	永 山	N/YR	表層腐植層	II dlfn	あり (48cm)	あり	強粘質	粘 質
37	NaE	永 山 東	N/GY	表層腐植層	II fa	あり (78cm)	あり	壤 質	強粘質
38	Sya	射 的	N/YR	表層腐植層	II tdprn	なし	あり	粘 質	泥 炭
39	ToY	豊 里	Y/Y	表層腐植層 なし	II tpni	なし	あり	粘 質	強粘質
40	ETN	江 丹 別	Y/Y	表層腐植層 なし	III p II na	なし	あり	強粘質	強粘質
41	Kos	更 新	N/Y	表層腐植層	II pn	なし	なし	強粘質	粘 質
42	Yo	吉 住	Y/G	表層腐植層 なし	II dprfn	あり (50cm)	あり	強粘質	礫 層

(2) 土 壌 統 一 覧(畑・草地)

統 番 号	地図上 の記号	土壌区名 分布面積	色層序	腐植層序	簡略分級式	礫層・砂礫 層礫を混在 する砂層	酸 化 沈積物	土 性	
								表層	次層
43	Hiw	東 桜 岡 西	YR/YR	表層腐植層 なし	III f II tdgpw ns	なし	なし	強粘質	強粘質
44	KaNN	上 南 部 北	YR/YR	表層腐植層	II tpfns	なし	なし	強粘質	強粘
45	ToK	東 京	YR/YR	表層腐植層	II tfnse	なし	なし	強粘質	砂 質
46	O	忍 路	YR/YR	表層腐植層 なし	III dis II tgp (w) fne	あり	なし	強粘質	強粘質
47	SiS	下 南 部 南	YR/YR	表層多腐植層	III s II tdgpfe	あり	なし	強粘質	強粘質
48	OE	忍 路 東	YR/YR	表層腐植層	III s II tdgpfe	あり	なし	強粘質	砂 質
49	Nu	沼 倉	YR/YR	表層腐植層	III w II tdgpfse	なし	あり	強粘質	強粘質
50	Y	八 千 代 ヶ 岡	YR/YR	表層腐植層	III dfe II tpfni as	礫混在	なし	粘 質	壤 質
51	T	千 代 ヶ 岡	YR/YR	表層腐植層	III pe II tdwfni as	小礫混在	なし	強粘質	強粘質
52	KAM	神 居	YR/YR	表層腐植層	II tpfns	なし	なし	強粘質	強粘質
53	TAK	拓 北	YR/YR	表層腐植層 なし	III i II tdpwnse	なし	なし	強粘質	強粘質
54	Nis	西 里	Y/Y	表層腐植層	III pi II dgwa	なし	なし	強粘質	強粘質
55	KKO	神 居 古 潭	BK/YR	表層腐植層	II dwie	あり	なし	壤 質	壤 質
56	NSK	西 丘	YR/YR	表層腐植層 なし	III i II dgpwfae	あり (60cm)	あり	強粘質	強粘質

泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母材	全国土壌統群名 (全国土壌統番号)	主に分布 する地域
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	細粒灰色低地土 13A01	東鷹栖
なし	13cm以下	水積(河成)	非固結堆積岩	礫質強グライ土 14C10	東鷹栖
なし	55cm以下	水積(湖成)	非固結堆積岩	細粒グライ土 14D15	東鷹栖
あり 24cm以下	あり	集積	ヨシ	泥炭土 16 01	東鷹栖
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	細粒褐色低地土・斑紋 12D10	永山
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	中粗粒褐色低地土・斑紋 12E12	永山
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	礫質褐色低地土・斑紋 12F15	永山
なし	33cm以下	水積(河成)	非固結堆積岩	礫質強グライ土 14C12	永山
あり (16~45cm)	なし	集積 水積	ヨシ/堆積岩	泥炭土/非固結堆積岩 16 05	永山
なし	なし	水積(扇状)	変成岩	細粒灰色低地土 13A04	豊里
なし	70cm以下	水積(河成)	非固結堆積岩	細粒グライ土 14D16	江丹別
なし	なし	水積(河成)	非固結堆積岩	灰色低地土・斑紋なし 13i31	豊里
なし	32cm以下	水積(河成)	非固結堆積岩	礫質強グライ土 14C09	豊里

泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母材	全国土壌統群名 (全国土壌統番号)	主に分布 する地域
なし	なし	残積	変成岩	暗赤色土 11 01	東旭川
なし	なし	洪積	非固結堆積岩	細粒褐色森林土 06A07	東旭川
なし	なし	洪積	非固結堆積岩	中粗粒褐色森林土 06B13	東旭川
なし	なし	崩積	変成岩	礫質褐色森林土 06C21	東旭川
なし	なし	崩積	固結火成岩	細粒褐色森林土 06A02	東旭川
なし	なし	崩積	固結火成岩	中粗粒褐色森林土 06B14	東旭川
なし	なし	水積(扇状堆土)	固結火成岩	細粒褐色森林土 06A10	東旭川
なし	なし	残積	固結火成岩	中粗粒褐色森林土 06B12	西神楽
なし	なし	洪積世堆積	非固結火成岩	細粒褐色森林土 06A05	西神楽
なし	なし	残積	非固結火成岩	細粒褐色森林土 06A02	神居
なし	なし	残積	変成岩	細粒褐色森林土 06A02	江丹別
なし	なし	水積	非固結堆積岩	細粒灰色低地土 13A02	江丹別
なし	なし	崩積	固結堆積岩	中粗粒褐色森林土 06B12	神居
なし	なし	崩積	変成岩	礫質褐色森林土 06C15	神居

## II. 土壌統の説明

### 1. 東 桜 岡 統

#### A-1 土壌統の特徴

本統は東桜岡地区の丘陵地周縁部に分布する灰色台地土をとりまとめた統である。土性は細粒質で粘着性は強く排水性が悪い土壌である。

#### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.203 東旭川町 水田）

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
灰色 5Y4/2	LiC	粒 質	12	大	糸 根	湿	小	細粒灰色台地土 07A03
灰褐 10YR3/1	LiC	連結状	20	大	糸 根	湿	小	
黄褐 10YR7/4	CL	連結状	25	大	膜 状	湿	小	風化細円礫含む
灰色 7.5Y7/1	L	大角柱	25	大	膜 状	半湿	小	

#### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	3.8	8.2	22.8	40.1	28.9	LiC			
2	15~22	4.1	10.2	23.4	38.5	27.9	LiC			
3	22~45	2.7	14.2	32.5	32.7	20.6	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.67	0.24	15	6.3	6.0	5.0	0.25	1107
2				4.74	0.31	15	8.2	6.2	5.3	0.25	1093
3				-	-	-	-	4.9	3.9	26.3	693





## 2. 共 栄 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は上川盆地に特徴的に分布する厚い黒色の腐植層をもつ土壤のうち、礫を含まない褐色低地土である。昭和40年の調査では本統の中に共栄1区と同2区を設定していたが1、2区をまとめて表示している。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.49 東旭川町 水田）



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~13	6.4	8.3	34.3	32.3	25.1	LiC			
2	13~18	6.8	7.2	34.1	36.5	22.2	CL			
3	18~30	6.1	8.4	54.8	29.9	7.0	L			
4	30~46	6.5	19.7	68.5	11.8	0	S			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				5.50	0.40	14	9.5	5.5	4.4	3.0	1418
2				6.77	0.49	14	11.6	5.5	4.4	2.8	1581
3				5.45	0.40	14	9.4	5.7	4.6	1.8	2075
4				3.54	0.28	13	6.1	5.9	4.9	0.8	2173

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	25.4	244	33	24	34.1		10.9	1.37	17.2	
2	30.0	269	45	19	32.0		3.2	—	16.0	
3	24.3	221	37	24	32.6		1.4	—	30.6	
4	17.1	106	16	14	22.5		—	—	80.4	

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同様に厚い腐植層をもつ統として、永山南統、永山統があり、ほとんど同類の土壌統である。東旭川地区では旭正統か黒色の腐植層をもつが、下層に礫層をもつことで本統で異なる。

A-5 母材：河川の堆積物(凝灰岩風化物)

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：平坦

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易性	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾上の堅さ)	灌水透水性	(作上下50cmの上性)	(の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	地の乾湿度	透水性	保水性	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	養分(土層の塩基状態)	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(珪酸)	(リン酸)	(窒素)	(微量元素)	酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p					l			r			w			f			n															
稲	II	II	I	I	II	3	2	1	I	2	2	I	2	2	1		II	1	2	2	II	1	1	1	1	2	1	1	1	I	I	1	I	1	1
畑	II	II	II	I	II	3	2	1						I	1	2	1	II	1	2	2	I	1	1	1	1		1	2	I	1	1	I	1	1
稲	II	tpfn						転換畑	II	tpf																									

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

リン酸吸収係数が大きいのでリン酸資材の施用を行う。腐植含量が高いので転換畑の麦作では銅欠乏の恐れがある。下層の透水性は良好であるが定期的に心土破砕を行うこと。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

### 3. 上 南 部 統

#### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東旭川上南地区の扇状地土に分布する細粒灰色台地土である。土性は細粒質で粘着性に強い。断面下部はち密で透水性は不良である。母材は周辺の

#### A-2 代 表 的 土 壤 断 面 の 記 載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.239 東旭川町上南部 水田）



#### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現地
1	0~12	3.9	15.3	22.6	35.0	27.1	LiC			
2	12~20	4.1	16.5	19.1	36.3	28.1	LiC			
3	20~45	5.2	23.1	14.0	34.5	28.4	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.00	0.26	8	3.4	5.1	4.1	11.5	1149
2				—	—	—	—	5.4	4.2	6.50	1164
3				—	—	—	—	6.2	4.9	0.75	1165

層位	塩基交換容 量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	19.9	115	30	19	20.8		2.5	1.48		
2	16.9	112	48	19	23.5		0.2	1.67		
3	17.5	140	131	24	28.8		0.2	1.58		

#### A-4 他の土壌統との関係

灰色台地土の土壌統には、東桜岡統、聖台統、北成統があるが母材の質が異なる。

A-5 母材：固結火成岩(安山岩)

A-6 堆積様式：水積(扇状堆土)

A-7 地形：丘陵と谷底平野との境界にある扇状地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表上の厚さ	有効土層の深さ	表上の礫含量	耕耘の難易	(表上の粘性)	(表上の粘着性)	(表上の風乾上の堅さ)	湛水透水性	(作土下50cmの土性)	酸化還元性	(の最高ち密度)	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	(グライ化度)	地の乾湿度	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(珪酸)	(窒素)	(微量元素)	障害性	(有害物質の有無)	災害性	(物理的障害性)	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p					l		r					w				f			n													
稲畑	II	II	I	I	II	3	3	2	I	1	2	I	3	2	1					II	2	2	3	II	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1
稲	II	tpfn																																	

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

下層がち密で透水性が不良である。暗渠による排水が不可欠である。

自然肥沃度が小さいので土壌改良材の施用、有機物の補給が求められる。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽 弥

## 4. 北日の出統

### A-1 土壌統の特徴

本統は牛珠別川流域、米飯川流域、忠別川流域にみられる腐植層をもたない。細粒灰色低地土である。周辺より一段低い最新の河川沖積面に分布する。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.86 東旭川町 水田)

Kit 86	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
13	灰色 5Y4/1	CL	粒 質	10	中	糸 根	湿	小	細粒灰色低地土 13A04
23	灰色 2.5Y6/2	LiC	連結状	16~18	中	な し	湿	小	
40	黄褐 10YR3/4	CL	塊 状	12	中	な し	湿	中	
	灰色 2.5Y7/2	CL	塊 状	13	中	膜 状	湿	中	

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~13	5.5	4.6	39.3	35.7	20.5	CL			
2	13~23	6.7	4.5	33.9	33.5	28.2	LiC			
3	23~40	4.1	9.8	45.9	26.0	18.3	CL			
4	40~	5.4	10.7	41.3	27.9	20.2	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.72	0.26	10	4.7	5.1	4.1	5.8	1114
2				—	—	—	—	6.1	5.0	0.3	1160
3				—	—	—	—	6.2	5.1	0.3	1009
4				—	—	—	—	6.0	4.7	0.5	1007



## 5. 下南部北統

### A-1 土壌統の特徴

本統は下南部地区の台地上に分布する灰色台地土又は褐色森林土に区分される土壌統である。腐植層は無く、下層は均質連結状でち密である。母材は周辺の熔結凝灰岩(軽石質)の再堆積物である。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.248 東旭川町下南部 水田)

土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
灰色 5Y4/1	CL	細粒	10	中	膜状	湿	中	細粒灰色台地土 07A03
灰色 5Y3/1	CL	連結状	15	中	なし	湿	中	
灰色 5Y7/3	CL	連結状	20	中	なし	湿	小	
灰色 7.5Y8/2	L	連結状	27	中	なし	半乾	小	

SINN  
248

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0~12	3.3	23.2	28.9	27.0	20.9	CL			
2	12~22	2.5	5.9	39.3	30.9	23.9	CL			
3	22~40	2.0	3.3	39.7	34.3	22.7	CL			

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				1.62	0.13	13	3.0	5.7	4.6	1.75	831
2				1.05	0.12	9	1.8	6.2	5.0	0.25	714
3				—	—	—	—	5.8	4.5	1.25	498

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	12.0	78	58	28	23.5		2.9	0.98		
2	9.9	92	62	14	33.3		0.4	0.90		
3	6.4	73	32	14	40.9		0.4	1.00		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ灰色台地土の土壌統として上南部統がある。母材も同じ熔結凝灰岩由来の再堆積物であり殆ど同一の土壌統として差しつかえないが、本統の場合、特に軽石質の部分が集まった母材であり区分している。

A-5 母材：熔結凝灰岩の再堆積

A-6 堆積様式：洪積世堆

A-7 地形：標高260m前後の台地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の難易	耕耘の難易	(表土の粘着性)	(表土の風乾上の堅さ)	水分の最高密度	酸還元性	(易分解性有機物含量)	遊離酸化鉄含有	土の乾燥性	透水性	保水性	湿度	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	リン酸	窒素	微量元素	酸害性	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)		
t	d	g	p					r			w				f			n								i		a					
稲	II	II	I	I	I	2	2	1	II	2	2	1	2	2	1			II	3	1	1	2	2			1	1	I	1	I	1	1	
畑	II	II	I	I	I	2	2	1				I	1	2	1	II	2	2	2	II	3	1	1	2		1	1	I	1	1	I	1	1
稲	II	tlfn				転換畑		II	tlfn																								

B-2 利用状況：水田

#### B-3 農業上の留意事項

下層の構造の発達が悪く、ち密度も高い。畑地では排水不良になるので心土破砕、モミガラ暗渠等に排水改良が必要である。

リン酸肥沃度に欠けるのでリン酸資材、塩基の補給が必要である。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥



## 6. 桜 岡 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は河川の沖積面に分布する灰色低地土である。表層に腐植層をもつため黒色である。土性は細粒質で構造の発達が悪い。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.87 東旭川町 水田)

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
黒色 5Y2/1	LiC	粒 質	11	大	糸 根	湿	中	細粒灰色低地土 13A01
黒色 5Y2/1	LiC	連結状	16	大	糸 根	湿	中	
灰色 5Y7/2	LiC	連結状	19	大	雲 状	湿	小	
灰色 5Y7/2	LiC	大塊状	21	大	雲 状	湿	小	
灰色								

Sa  
87

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~11	5.8	7.2	30.1	31.9	30.8	LiC			
2	11~18	6.2	5.6	27.9	32.9	33.6	LiC			
3	18~23	5.4	2.2	20.9	42.7	34.1	LiC			
4	23~38	5.7	1.4	36.9	40.1	21.6	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				4.63	0.33	14	8.0	5.5	4.4	2.0	1397
2				3.69	0.30	12	6.3	5.8	4.6	0.8	1314
3				—	—	—	—	5.7	4.5	2.0	1318
4				—	—	—	—	5.6	4.4	4.0	1265

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	24.4	249	69	19	36.5		2.9	3.80	13.9	
2	25.1	325	97	14	46.3		4.6	—	13.7	
3	17.4	224	75	14	46.0		1.7	—	17.7	
4	16.5	199	64	14	42.9		1.5	—	25.2	

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ細粒灰色低地土に北日の出統があるが、本統と異なり腐植層をもたない。圃場整備で腐植層を欠いた場合は北日の出統と区別する必要はなくなるであろう。また、隣接して細粒グライ土の日の出統との境もあまり明確なものではない。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：河川の沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	湛水透水性	作上下50cmの上性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿度	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の上層の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸性	障害性	物理的障害性	有害物質の有無	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)
t	d	g	p			l			r			w			f			n															
稲	II	II	I	I	II	3	3	2	I	I	2	I	I			II	I	I	II	I	I	2	I	2	I	I	I	I	I	I	I	I	I
畑	III	II	I	I	II	3	3	2					III	3	2	3	II	I	I	II	I	I	2			1	2	I	I	I	I	I	I
稲	II	tpfn				転換畑			III	w	II	tpfn																					

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

水田としての利用では、透水性改善に努めること。特に畑利用では湿害の恐れが強いので排水改善は不可欠である。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

# 7. 瑞 穂 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は旭川市東旭川地区の米飯川上流部沖積面に分布する礫質褐色低地土である。地表下30cm以内に円礫からなる礫層が出現する。

## A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.230 東旭川町瑞穂 水田）



## A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~11	5.1	19.8	35.0	21.0	24.2	CL			
2	11~18	5.7	22.0	49.7	14.7	13.6	SL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.34	0.34	10	5.8	5.2	4.0	21.8	1522
2				1.57	0.16	10	2.7	5.8	4.6	1.50	1796

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	28.7	244	44	24	30.4		9.5	1.29		
2	29.2	456	79	19	55.8		0.4	1.60		

#### A-4 他の土壌統との関係

地表下30cm以内に礫層、砂礫層が出現する土壌統として忠別統、永山地区の北永山統がある。忠別統は表層に腐植層を持つことで異なる。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地 形：河川の沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	表土の礫含量	表土の粘性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水の透水性	耕作50cm上の土性	酸還元性	の最高ち密度	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	土の乾湿度	グライ化度	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p					l		r				w				f		n																
稲畑	III	II	III	I	I	2	1	1	III	3	2	I	3	2	1				II	1	3	2	I	1	1	1	2	1		1	1	I	1	I	1	1
稲	III	d	II	tf																																

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

礫層が浅く出現するので一般的には排水性は良好であるが断面内に踏圧層をもつ場合は排水不良田となるので穿孔処理による透水性改善が有効である。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽 弥

## 8. 忠 別 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

表層に腐植層を持つ湿性タイプの礫質土壌である。この表層が黒色で礫層が浅く出現する土壌は隣町の東川町から連続して認められる土壌である。東川町では本統よりも乾性タイプの土壌統として設定されている。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.65 東旭川町）

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
黒色 2.5Y3/2	LiC	粒 質	8	中	糸 根	湿	中	礫質強グライ土 14C13  φ10~20cm 巨円礫
黒色 10Y3/1	LiC	連結状	16	大	膜 状	湿	中	
礫層								

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g /100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~14	7.0	11.3	24.1	31.6	33.1	LiC			
2	14~24	8.2	10.5	24.7	31.4	33.4	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リ ン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				7.22	0.59	12	12.4	5.2	4.4	1.5	1267
2				7.51	0.62	12	12.9	5.4	4.6	0.8	1299

層位	塩基交換容 量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離 酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	28.0	356	54	52	45.2		10.2	1.30	15.7	
2	30.3	426	66	19	50.2		8.7		18.9	

#### A-4 他の土壌統との関係

表層に腐植層をもち礫が浅く出現する土壌として忠別南統がある。この土壌統は東川町から連続して分布するが本統より乾性タイプとして暗色表層褐色低地土として設定している。隣接する統である旭正統も本統より腐植含量がわずかに少ないだけであり、本統と殆ど同じ土壌統である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：やや古い沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	表土の礫含量	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	湛水透水性	作上下50cmの土性	の最高ち密度	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	土の乾湿性	透水性	保水性	湿润度	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富否	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)		
	t	d	g	p			l		r		w		f		n		i		a																		
稲畑	III	II	III	I	II	3	2	I	1	2	II	3	2	3				II	1	2	2	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	III	1	3	I	1	1
稲	III	di	II	tprf																																	

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

転換畑利用の場合、礫が作土層に現れて機械作業に支障をきたす。また、銅欠乏の生理障害を生じる恐れがあるので麦作には注意をすること。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

# 9. 下 南 部 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東旭川地区で米飯川流域の沖積地と丘陵地との接合部に発達した扇状地上の褐色森林土である。表層の土性は細粒質で粘着性が大きい。圧密層があり透水性は不良である。

## A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.245 東旭川町下南部 水田）



## A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~14	2.7	19.3	20.1	30.8	29.8	LiC			
2	14~	2.4	28.5	18.4	30.7	22.4	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.94	2.94	11	5.1	5.6	4.5	3.00	847
2				—	—	—	—	5.8	4.4	2.50	679

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	18.2	137	73	24	26.9		2.5	1.13		
2	11.5	92	52	9	28.4		0.4	1.41		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する統として同じ地域にある上南部北統がある。母材も同じであるが畑利用として別の土壌統になっている。水田利用が多くなった現在では下南部統と上南部北統は同一統としてさしつかえない。

A-5 母材：固結火成岩

A-6 堆積様式：水積(扇状堆土)

A-7 地形：標高220～300mの緩傾斜地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	灌水透水性	作上下50cmの土性	酸還元の最高密度	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富否	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
	t	d	g	p						r				w					f		n															
稲	II	II	II	I	II	3	2	2	I	I	I	II	2	2	2				II	2	2	3	II	2	I	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
畑	III	III	II	I	II	3	2	2						II	2	2	2	II	2	2	2	II	2	1	1	2	3	1	2	I	1	1	1	1	1	
稲	II	td	pr	fn					転換畑	III	t	II	dp	w	fn																					

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

下層が堅密で根系の伸長を阻害する。心土破碎による有効土層の深化を図る。下層は塩基に欠けるので土改資材の投入が必要である。リン酸肥沃度も小さい。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽 弥



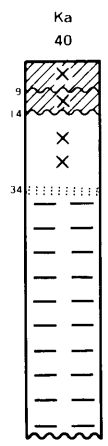
# 10. 上 兵 村 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東旭川上兵村地区に広く分布するグライ土をとりまとめた。全層にわたって土性は細粒質で粘着性は強く、透水性は不良である。40cm以内にグライ層が出現する。

## A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.40 東川町 水田)



土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
灰色 2.5Y5/2	LiC	粒 質	10	大	糸 根 状	湿	小	細粒グライ土 14D16
灰色 2.5Y3/2	LiC	連 結 状	13	大	糸 根 状	湿	小	
灰色 7.5Y7/1	LiC	連 結 状	15	大	雲 状	湿	小	
青灰 2.5GY5/1	LiC	連 結 状	14	大	糸 状	湿	小	グライ層

## A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~9	6.5	6.2	22.0	33.7	38.1	LiC			
2	9~14	6.4	6.8	22.2	33.3	37.7	LiC			
3	14~34	4.8	8.6	30.3	30.2	31.0	LiC			
4	34~	5.8	10.9	34.0	27.9	27.3	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.82	0.35	11	6.6	5.1	4.1	5.0	987
2				-	-	-	-	5.4	4.4	1.5	877
3				-	-	-	-	5.4	4.4	1.5	767
4				-	-	-	-	5.1	4.1	2.8	727

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ 2	トルオグ法		
1	20.5	221	34	19	38.5		17.1	1.11	13.9	
2	22.1	246	42	9	39.9		8.8	—	17.0	
3	13.7	218	52	14	56.6		1.7	—	24.4	
4	13.3	188	87	24	50.4		2.3	—	37.5	

#### A-4 他の土壌統との関係

東旭川地区で本統と同じグライ土として米飯統、日の出統がある。グライ層の出現位置がわずかに違っていることと表層の腐植含量が若干の差があるが、圃場整備で腐植層がかくはんされた場合はこれら二者の区分は不要である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：平坦地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕土の粘性	(表土の粘性)	(表土の風乾土の堅さ)	湛水透水性	(作上下50cmの土性)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	地の乾湿度	水の潤性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の塩基状態	養分の豊富	(置換性石灰含量)	" " " "	" " " "	(有効態リン酸)	" " " "	" " " "	" " " "	微量元素	酸害性	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)		
																																			t	d
稲	II	II	I	I	II	3	2	2	I	1	2	I	3	2	2				II	1	2	II	1	1	1	1	1	2	1	2	I	1	1	I	1	1
畑		III	I	I	II	3	2	2							III	3	2	3	II	1	2	2	II	1	1	1	1		1	2	I	1	1	I	1	1
稲	II	tpfn						転換畑	III	tw	II	pf	n																							

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

地下水位が高いので暗渠排水に努めること。転換畑では湿害になりやすいので特に排水に留意する。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

# 11. 米 飯 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東旭川地区の米飯川中流域の沖積地に分布するグライ土である。全層がグライ層となっている。土性は細粒質で粘着性は強い。

## A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.59 東旭川町 水田)



## A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~11	6.2	5.6	45.1	25.7	23.7	CL			
2	11~15	6.6	4.5	45.0	22.6	27.8	LiC			
3	15~26	4.2	4.7	58.9	18.0	18.4	SCL			
4	26~	5.3	3.6	56.8	19.7	13.9	SCL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				4.00	0.37	11	6.9	5.3	4.4	2.3	1153
2				4.09	0.37	11	7.0	5.6	4.7	1.0	1233
3				—	—	—	—	5.9	4.8	1.0	1204
4				—	—	—	—	5.2	4.0	9.3	867

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	22.2	263	54	33	42.2		13.4	1.59	18.7	
2	22.0	328	58	19	53.0		7.4	—	21.6	
3	14.6	207	56	19	50.3		1.6	—	29.2	
4	15.7	162	85	14	36.7		1.6	—	33.3	

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と類似する統として上兵村統、日の出統がある。グライ層の出現位置に若干の差はあるもののほとんど同一の統として取り扱える。

A-5 母材：非固結堆積岩水性岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：標高130m内外の平坦な河川沖積地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の風乾土の堅さ	表土の透水性	湛水50cmの土性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	微酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)
	t	d	g	p		l		r		w	f	n																					
稲	III	II	I	I	II	2	2	2	II	3	1	3				II	1	2	2	I	1	1	1	1	1	1	1	1	I	1	I	1	1
畑	III	II	I	I	II	2	2	2					III	2	2	3	II	1	2	2	I	1	1	1			1	1	I	1	I	1	1
稲	II	tprf			転換畑	III	w	II	tpf																								

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

グライ層が浅く出現するので畑利用の場合は湿害を受ける恐れがある。水田、畑利用とも透排水性改善に努めること。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

## 12. 千代田統

### A-1 土壌統の特徴

本統は東旭川地区の西部に広く分布する細粒質グライ土である。表層に腐植層をもち、下層に円礫を含むグライ層がある。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.12 東川町 水田)



### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~10	6.8	8.8	27.1	30.4	33.8	LiC			
2	10~21	6.8	8.7	29.0	33.7	29.6	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				5.71	0.45	11	8.3	5.2	4.3	4.0	1468
2				7.17	0.61	12	11.4	5.6	4.7	0.8	1539

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	17.9	171	48	19	34.3		9.0	22.9	25.3	
2	36.2	333	52	5	32.7		6.2	—	24.8	

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じグライ土に米飯統、上兵村統があるが、これらの統には礫が無いことで区別される。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：平坦な地形

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	湛水透水性	作上下50cmの土性	の最高ち密度	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分(上層の塩基状態)	置換性石灰含量	苦土	カ	リ	酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)		
t	d	g	p					l		r				w				f		n																		
稲畑	II	II	II	I	II	3	2	2	1	1	2	II	3	1	2				II	2	2	2	II	2	1	1	2	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1
稲	II	td	pr	fn																																		

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

下層が堅密な粘礫層で透水性に欠けるから排水の完備が必要である。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

## 13. 瑞 穂 東 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は米飯川上流部の小沢流域に分布する細粒グライ土である。腐植層が厚い。断面下部には半角礫を含む粘礫層となっている。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.233 東旭川町瑞穂 水田）

MIE 233	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
15	黒色 7.5Y3/1	LiC	細 粒	10	大	糸 根	湿	小	細粒強グライ土 14A01
35	灰色 7.5Y3/2	LiC	連結状	12	大	グライ斑	湿	小	小半角礫を含む
45	黒色 7.5Y3/1	C	連結状	17	大	な し	湿	小	細小半角礫を含む
	青灰 2.5GY5/1	L	連結状	—	中	な し	潤	小	グライ層

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	5.0	17.7	33.6	23.1	25.6	LiC			
2	15~35	5.5	12.4	31.0	25.6	40.0	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				4.57	0.41	11	7.9	5.0	4.0	14.5	1668
2				6.09	0.47	13	10.5	5.2	4.1	9.50	1786

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	36.4	426	77	19	41.7		3.9	1.26		
2	42.4	487	64	24	40.9		0.4	1.46		

#### A-4 他の土壌統との関係

粘礫層を持つグライ土として千代田統があるが千代田統は礫の種類が円礫であり分布面積も大きい。

A-5 母材：非固結堆積岩水性岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：小沢の沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	表土の風乾上の堅さ	水透水性	作上下50cmの土性	の最高ち密度	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	湿润度	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	有効態リン酸	微量要素	酸性	障害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度
t	d	g	p			l				r				w				f			n															
稲	II	II	I	I	II	3	2	2	I	1	2	II	3	2	2				II	1	3	2	II	1	1	2	1	1		2	I	1	1	I	1	1
畑	III	II	I	I	II	3	2	2						III	2	2	3	II	1	3	2	II	1	1	2	1		1	2	I	1	1	I	1	1	1
稲	II	tprfn				転換畑			III	w	II	tpfn																								

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

周辺が丘陵地でそこからの伏流水の影響をうけるので透水性の設置が必要である。りん酸肥沃度に欠けるのでりん酸資材の施用が必要である。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽 弥



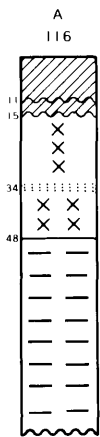
## 14. 旭 山 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は主として東旭川の旭山北部および米飯川下流域に分布するグライ土である。グライ層の出現位置は50cm前後となる。下層の粒径は粗粒質である。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.116 東川町 水田）



土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
黒色 10Y2/1	CL	粒 質	8	中	な し	湿	中	細粒グライ土 14D19
黒色 10Y2/1	LiC	連結状	15	大	な し	湿	中	
灰色 2.5Y6/2	CL	塊 状	14	大	点 状	湿	中	
灰色 2.5Y6/2	CL	塊 状	17	大	膜 状	湿	小	
青灰 2.5GY5/1	S	単 粒	—	小	な し	湿	小	グライ層

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 性 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~11	5.8	9.8	38.6	27.8	23.9	CL			
2	11~15	7.1	9.4	35.8	28.3	26.6	LiC			
3	15~26	4.7	8.4	43.9	28.5	19.2	CL			
4	34~48	5.4	1.7	39.3	34.1	24.9	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				4.12	0.33	12	7.1	5.1	4.2	4.5	1133
2				3.48	0.31	11	6.0	5.7	4.7	0.8	1314
3				—	—	—	—	6.2	5.1	0.3	954
4				—	—	—	—	5.8	4.7	0.5	961

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	21.1	190	42	19	32.1		17.6	2.01	17.3	
2	22.4	305	46	14	48.6		5.2	—	18.0	
3	12.9	207	62	19	57.4		1.1	—	31.2	
4	14.5	196	79	21	48.5		2.3	—	46.4	

#### A-4 他の土壌統との関係

東旭川地区の細粒グライ土には、米飯統、上兵村統があるがこれらのグライ層出現位置は本統より浅い。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：標高150m内外の沖積低地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水透水性	湛作上下50cmの土性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富否	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	微酸性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)
	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a														
稲	II	II	I	I	II	3	3	2	I	I	2	II	3	2	2		II	3	2	I	I	1	1	3	1	1	1	I	1	I	1	1
畑		II	I	I	II	3	3	2				III	2	3	3	II	3	2	2	I	1	1	1	3	1	1	2	I	1	1	I	1
稲	II	tprf			転換畑	III	w	II	tpf																							

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

透排水性の改善を行うこと。転換畑利用では特に排水に努めること。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

## 15. 桜 岡 南 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統はグライ土であるが断面下部に泥炭層をもつ土壌統である。泥炭の種類にヨシを主体とする低位泥炭で分解程度は良好である。分布面積はせまく、旭山の東部低地に限られている。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.206 東旭川町 水田)

SaS 206	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
15	灰色 7.5Y4/1	CL	細 粒	10	中	糸 根	湿	中	グライ土・下層 有機質 14G29
27	灰色 7.5Y4/1	CL	連結状	15	中	糸 根	湿	中	
45	黒色 2.5Y1/1	CL	連結状	10	中	な し	湿	小	泥炭質
60	灰色 5Y4/2	LP	連結状	—	中	な し	潤	小	泥炭層 湧水60cm

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	3.0	16.0	37.5	27.2	19.3	CL			
2	15~27	3.0	15.6	31.0	30.9	22.5	CL			
3	27~45	5.5	8.6	30.5	35.7	25.2	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				1.63	0.22	7	2.8	5.1	4.0	7.75	850
2				—	—	—	—	5.4	4.3	2.25	858
3				—	—	—	—	5.1	4.2	2.25	1109

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	16.5	120	36	19	25.8		3.4	1.08		
2	15.3	179	44	14	41.8		0.6	1.46		
3	27.4	252	44	19	32.9		9.5	0.95		

#### A-4 他の土壌統との関係

東旭川地区で泥炭をもつ土壌統としては本統のみである。

A-5 母材：非固結堆積岩／泥炭

A-6 堆積様式：水積／集積

A-7 地形：米飯川流域の平坦地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表上の厚さ	有効土層の深さ	表上の礫含量	耕耘の難易	耕転の粘性	(表上の粘性)	(表上の風乾土の堅さ)	灌水透水性	(作上下50cmの土性)	の最高密度	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	グライ化度	土の乾湿度	透水性	保水性	湿度	自然肥沃度	保肥力	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	置換性石灰含量	(苦土)	(カリ)	(珪酸)	(有効態リン酸)	微量要素	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p					l		r				w				f			n															
稲	II	II	I	I	I	2	1	II	2	2	II	2	2	3				II	2	2	2	II	2	1	1	2	2	1	1	I	1	1	I	1	1	
畑	III	II	II	I	I	2	1	I							III	2	3	3	II	2	2	2	II	2	1	1	2	1	2	1	I	1	1	I	1	1
稲	II	II	lr	fn				転換畑		III	w	II	td	fn																						

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

透排水性の改善を行うこと。泥炭層が浅い場合は有効態ケイ酸の施用が必要である。圃場整備にあたっては客土が必要となる場合がある。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

# 16. 日 の 出 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は表層に腐植層をもち、作土直下からグライ層が出現する細粒グライ土の土壤である。全層にわたって土性は細粒質で粘着性は強い。

## A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.55 東旭川町 水田）



## A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~14	6.6	9.6	26.7	31.4	32.1	LiC			
2	14~20	5.8	7.0	27.4	29.6	36.0	LiC			
3	20~32	6.3	6.8	13.9	34.6	50.7	HC			
4	32~	5.6	13.7	26.8	24.2	35.4	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リ ン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				5.74	0.39	15	9.9	5.1	4.2	2.8	1364
2				5.97	0.44	14	10.3	5.3	4.4	1.0	1309
3				—	—	—	—	5.0	4.1	5.0	985
4				—	—	—	—	4.7	3.7	10.8	963

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	26.3	255	26	28	34.6		5.6	3.55	22.9	
2	26.7	333	56	19	44.5		5.8	—	22.0	
3	25.6	311	71	14	43.2		3.3	—	35.9	
4	23.0	288	97	14	44.6		0.8	—	43.6	

#### A-4 他の土壌統との関係

東旭川地区で断面上部からグライ層が出現する土壌統として上兵村統、米飯統がある。グライ層の出現位置が若干異なるが殆ど同一の統として取りあつかえる。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：河川による沖積低地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の土性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水透水性	作上下50cmの土性	の最高ち密度	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富否	置換性石灰含量	苦土	カリ	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	物理的障害性	有害物質の有無	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
	t	d	g	p							r			w				f			n															
稲	II	II	I	I	II	3	3	2	1	1	2	II	3	1	3				II	1	2	2	II	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
畑	III	II	I	I	II	3	3	2								III	3	2	3	II	1	2	2	II	1	1	1	2		1	2	I	1	1	1	1
稲	II	tp	r	f	n		転換畑	III	w	II	tp	f	n																							

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

塩基飽和度が低くリン酸肥沃度に欠けるので土壌改良資材の施用が望まれる。また、水田、畑利用とも透排水性の改善が急務である。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥

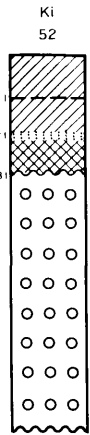
## 17. 旭 正 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は表層に黒色の腐植をもち下層が砂礫層となる礫質褐色低地土で隣町の東川町から連続して広く分布する土壤である。乾性タイプの土壤であるが一時的に地下水位が上昇することもある。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.52 東旭川町 水田）



土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
灰色 5Y4/2	CL	粉 状	15	中	な し	湿	中	礫質褐色低地土 12F16
黒色 10YR2/1	L	連結状	18	中	な し	湿	中	
黒色 10YR1/1	CL	板 状	17	中	な し	湿	中	小中大円礫
礫層	G&S	単 粒	—	—	な し	—	大	

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~11	6.0	16.3	37.0	29.4	17.3	CL			
2	11~21	7.0	12.9	43.2	32.2	11.7	L			
3	21~32	5.4	8.7	37.7	34.1	19.5	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.73	0.28	13	6.4	5.7	4.8	0.6	1783
2				5.42	0.38	14	9.3	5.9	5.0	0.5	2185
3				6.79	0.49	14	11.7	5.9	4.9	0.8	2038

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ 2	トルオグ法		
1	19.8	221	46	24	40.1		5.0	1.41	57.8	
2	23.5	249	34	19	37.7		4.3	—	51.5	
3	28.4	316	46	19	39.6		4.9	—	48.5	

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と隣接し、また類似する統として忠別統がある。断面記載では表層の腐植含量が多いが圃場整備を行ったところでは本統との区別は困難である。東川図幅の忠別中央統と同一統である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：標高 150 m前後の平坦地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘性)	(表土の風乾上の堅さ)	湛水透水性	(作上下50cmの土性)	酸化還元性	(%)の最高ち密度	遊離酸化鉄含有	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	水の潤性	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(珪酸)	(窒素)	(微量元素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)				
t	d	g	p																																		
稲	III	II	II	I	I	2	2	1	I	2	2	I	I	2	2				II	2	3	2	II	1	1	1	2	3	1	1	1	III	1	3	I	1	1
畑	III	II	III	II	I	2	2	1								I	2	2	1	II	2	3	2	II	1	1	1	2		1	2	III	1	3	I	1	1
稲	III	i	II	tdfn				転換畑		III	di	II	tgfn																								

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

リン酸固定力が強いのでリン酸資材の施用に努めること。また、礫層上に踏圧層がある場合は排水不良田となるので穿孔暗渠が有効である。腐植が銅を固定するので麦作の場合は銅欠乏症に注意すること。

C 調査年月日：昭和40年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 野村 琥



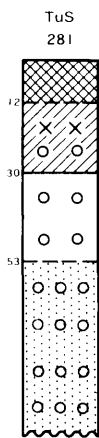
# 18. 忠 別 南 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東川町から連続して分布する黒色の表層を持ち礫層が出現する礫質褐色低地土である。

## A-2 代 表 的 土 壤 断 面 の 記 載

土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.281 東 旭 川 町 水 田 )



土 色	土 性	構 造	ち 密 度	粘 着 性	斑 紋	湿 り	透 水 性	備 考
黒色 N25/0	CL	粒 状	14	中	糸 根	湿	中	礫質褐色低地土 12C05
黄褐 10YR5/6	CL	板 状	20	中	膜 状	湿	中	
黄褐 10YR5/6	CL	細 塊	18	中	な し	半湿	中	
砂礫層	S&G	単 粒	—	なし	な し	半湿	大	小中大円礫層

## A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真 比 重	容 積 重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風 乾 土	現 地
1	0 ~ 12	8.0	7.7	46.1	26.7	19.5	CL			
2	12 ~ 30	8.5	9.4	55.1	20.3	15.2	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全 炭 素 (%)	全 窒 素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				7.64	0.61	12.5	13.2	5.9			1783
2				3.39	0.34	9.9	5.8	6.3			2185

層位	塩基交換容 量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離鉄 化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	26.2	196	41	32	27.0		15.0	—	52	
2	25.0									

#### A-4 他の土壌統との関係

東川町では忠別中央統(暗色表層褐色低地土・礫質)に相当する。東川地区では忠別統が本統とほぼ同一の土壌断面形態を示したが本統より湿性である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：やや古い河川沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の難易	表土の粘着性	表土の結着性	表土の風乾上の堅さ	表土の風乾上の堅さ	水分の最高密度	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	上層の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸性	障害性	物理的障害性	有害物質の有無	増冠水の危険度	地滑りの危険度	
t	d	g	p								r			w				f		n															
稲	III	II	I	I	I	2	1	1	II	2	2	1	2	1				III	1	4	3	II	2	1	1	3	2	1	2	1	1	1	1	1	1
畑	III	II	II	I	I	2	1	1						1	1	2	1	III	1	4	3	II	2	1	1	3		1	2	1	1	1	1	1	1
稲	III	f	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

リン酸の固定力が強いのでリン酸資材の施用を行う。麦作では銅欠乏の恐れがある。

C 調査年月日：昭和41年3月

調査者：北海道立北見農業試験場 中山利彦  
北海道立中央農業試験場 小林荘司

## 19. 沼 倉 南 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は沼倉川沿いに分布するやや土性の粗い灰色低地土ないしグライ土の土壤統である。山際の部分では伏流水によって季節的に停滞水位が変化する。

### A-2 代 表 的 土 壤 断 面 の 記 載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.280 東旭川町 水田)

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
灰褐 10YR3/2	CL	塊 状	6	中	な し	湿	中	細粒灰色低地土 14B07
灰褐 10YR3/2	L	な し	11	中	な し	湿	中	
黄褐 2.5Y6/3	L	塊 状	21	中	雲 ト 状 ム	湿	小	
黄褐 2.5Y5/3	LS	単 粒	12	小	雲 ト 状 ム	湿	中	

### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~25	3.0	36.9	13.7	27.9	21.6	CL	2.5	102.3	
2	25~65	2.3	49.5	13.4	24.0	13.1	L			
3	65~	1.6	79.0	10.0	4.2	6.8	LS			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	41.3	51.2	7.5	2.24	0.18	12	3.9	5.4	4.4	2.9	870
2				0.24				5.5	4.4	3.3	600
3				0.27				5.4	4.5	3.4	610

層位	塩基交換容 量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	9.8	140	26	19	51		46.8	16.5		42.0
2	4.0	84	19	14	75		3.9	2.0		
3	4.8	16	3	7	13		20.4	4.2		

#### A-4 他の土壌統との関係

東川町図幅では東忠別統に相当する土壌統である。下層の土性は粗い。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：河川沿いの沖積低地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表上の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	(表上の粘性)	(表上の風乾上の堅さ)	湛水透水性	(作土下50cmの土性)	(〃の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	(グライ化度)	地の乾湿性	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(〃苦土)	(〃カリ)	(〃珪酸)	(〃窒素)	(微量要素)	酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)		
t	d	g	p			l			r			w				f			n								i		a					
稲	II	II	I	I	I	2	2	I	II		I	I	I	2			II	1	2	2	I	2	1	1	2	1		1	I	1	I	1	1	
畑		III	II	I	I	2	2	1					II	2	2	2	II	2	2	I	II	1	1	1	1	2	1	1	2	I	1	I	1	1
稲	II	tIf				転換畑	III	t	II	d	w	f	n																					

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

下層の透水性は比較的良好である。転換畑利用では塩基に欠乏するので土壌改良材の施用が必要である。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立上川農業試験場 横井義雄  
北海道立中央農業試験場 小林荘司

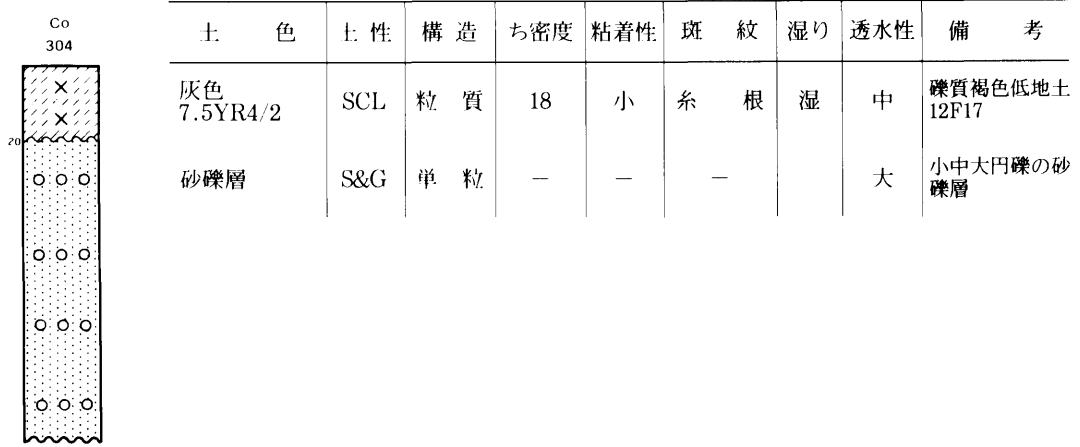
## 20. 中 央 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は美瑛川沿いの沖積面に分布する褐色低地土で礫層が作土直下から出現する礫質褐色低地土である。未客土のところでは作土層は薄い。

### A-2 代 表 的 土 壤 断 面 の 記 載

土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.W304 辺 溪 朗 水 田 )



### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真 比 重	容 積 重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風 乾 土	現 地
1	0 ~ 20	2.30	38.5	27.0	18.7	15.8	SCL			

層位	3 相 分 布 (%)			全 炭 素 (%)	全 窒 素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				24.1	0.15	16.1	4.15	5.4	4.6	5.63	830

層位	塩基交換容 量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離 酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	19.4	96	25	16	17.8			1.32		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統とほぼ同一の土壌型の統として永山地区に分布する北永山統がある。作土直下から砂礫層が出現する。上流部の礫サイズは大きくなる。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：河川の沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の粘性	表土の粘性	表土の風乾土の堅さ	表土の風乾土の粘性	水分の最高密度	作上下50cmの土性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿度	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の豊富否	(土層の塩基状態)	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(珪酸)	(窒素)	(微量元素)	(酸害性)	障害	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)	
t	d	g	p																																		
稲	III	I	III	I	II	2	2	2	III	3	2	1	2	2	1				II	2	2	2	II	2	1	1	1	2			1	III	1	3	I	1	1
畑		II	III	II	II	2	2	2							(II)	1	1	2	II	2	2	2	II	2	1	1	1	2		2	III	1	3	I	1	1	
稲	III	dli	II	pf	n		転換畑	III	di	II	tg	(w)	fn																								

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

作土双のいところは客土が必要である。転換畑では下層の礫が作土に混入して耕耘を困難にする。また、干ばつの恐れがややある。

C 調査年月日：昭和47年3月 調査者：北海道立上川農業試験場 野崎輝義

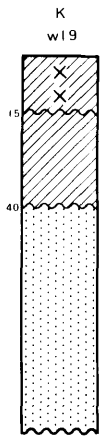
## 21. 神 楽 統

### A-1 土壌統の特徴

本統は忠別川及び美瑛川の沖積面に分布する腐植層をもった褐色低地土である。代表地点の断面では下層は砂層となっているが砂礫層となることもある。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.W19 西神楽 水田）



土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
黒色 7.5YR2/1	CL	粒 質	15	中	糸 根	湿	中	細粒褐色低地土 12A02
黒色 7.5YR1.7/1	CL	細 塊	18	中	な し	湿	中	
黄褐 10YR4/6	S	単 粒	19	小	雲 ア 状 り	湿	大	

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	4.15	21.1	27.8	26.9	24.2	CL			
2	15~40	4.72	19.5	31.7	27.3	21.5	CL			
3	40~	1.96	79.6	13.5	5.6	1.3	S			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.44	0.37	9.3	5.93	5.0	4.6	6.25	1509
2				3.52	0.30	11.7	6.06	5.5	4.9	3.13	1551
3				2.63	0.09	29.2	4.53	5.2	4.9	2.50	814





## 22. 新 区 画 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は美瑛川沿いの沖積地に分布する砂質褐色低地土で表層に腐植層を持つ。土性は粘質～中粗粒質である。褐色低地土ではあるがやや湿性で斑紋を有する。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.W48 千代ヶ岡4区稲葉九次郎宅地先 水田）

Si w48	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
15	黒色 10.0YR3/1	CL	粒 質	15	中	糸 膜 根 状	湿	中	礫質褐色低地土 12C05
30	黒色 10.0YR2/1	LiC	細 粒	18	中	な し	湿	小	
55	黄褐 10.0YR6/4	SCL	細 塊	25	中	雲 状	湿	小	
	砂礫層	S&G	単 粒	—	—	—	—	大	

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～15	4.20	14.7	24.2	38.3	22.8	CL			
2	15～30	5.14	9.5	20.3	35.3	34.9	LiC			
3	30～55	2.92	33.8	25.1	19.6	21.5	SCL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				4.90	0.30	16.3	8.4	5.8	5.1	2.50	1187
2				6.68	0.37	18.1	11.5	6.1	5.2	2.50	1339
3				0.43	0.12	3.6	0.7	6.1	5.1	1.88	805

層位	塩基交換容 量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離 酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	30.0	217	51	20	25.8				1.40	
2	33.8	308	64	35	32.5				1.61	
3	15.0	119	44	25	28.3				1.47	

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に隣接する統として神楽統があるが下層が礫層でないことで区別される。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：河川の沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾上の堅さ)	湛水透水性	(作上下50cmの土性)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	土の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(上層の塩基状態)	養分の豊否	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(珪酸)	(窒素)	微量元素	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p					l		r			w			f			n								i		a				
稲	II	I	I	II	2	2	1	I	2	1	II	2	2	1		II	1	2	3	I	1	1	1	1	2		1	I	1	II	2	1	
畑	II	I	II	I	II	2	2	1						I	2	1	II	1	2	3	I	1	1	1	1	2		1	I	1	II	2	1
稲	II	prfa						転換畑	II	dpfa																							

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

断面中間部の土層がち密で透水性が不良となっている。心土破碎による透水性改善が求められる。

C 調査年月日：昭和47年3月 調査者：北海道立上川農業試験場 野崎輝義

## 23. 聖 和 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は美瑛川沿いの巾の広がった沖積面に分布するグライ土壌である。川から離れるため排水不良となり湿性の土壌となっている。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.W45 聖和6区平田幸作宅地先）



### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~20	8.02	5.6	17.9	33.1	43.4	LiC			
2	20~35	3.61	12.9	17.7	29.5	40.0	LiC			
3	35~70	3.63	24.4	28.3	33.1	14.2	L			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				6.44	0.39	16.5	11.1	5.9	4.9	4.4	1271
2				2.15	0.10	21.5	3.7	5.8	4.5	10.0	805
3				0.17	0.06	2.8	0.3	5.7	4.4	10.6	949

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	26.9	186	38	13	24.7			1.85		
2	28.8	114	47	14	14.1			1.68		
3	20.0	118	68	19	21.2			1.06		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌として嵐山統がある。こちらはグライ台地土であるが土壌管理の面からは同一の扱いである。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：河川の沖積平坦地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	耕転の上性	表土の粘性	表土の風乾上の堅さ	水の透水性	作上下50cmの土性	酸化還元性	遊離酸化鉄含有	易分解性有機物含量	土の乾湿度	水の透水性	水の保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	酸性	障害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	地滑りの危険度	増冠水の危険度		
t	d	g	p									w			f			n								i		a					
稲	III	I	I	III	3	3	2	I	I	II	3	1	2		II	1	2	3	II	2	1	2	1	1		1	I	1	1	II	2	1	
畑	III	I	II	I	III	3	3	2					II	3	2	2	II	1	2	3	II	2	1	2	1	1	1	I	1	1	II	2	1
稲	III	p	II	rf	na		転換畑	III	p	II	d	w	f	na																			

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

明渠及び暗渠による排水促進を図ること。塩基に不足するので土壌改良材の施用を行うこと。

C 調査年月日：昭和47年3月 調査者：北海道立上川農業試験場 野崎輝義

## 24. 西 瑞 穂 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は西神楽地区の丘陵台地西緑部の低地に分布する腐植層の厚いグライ土である。土性は細粒質で粘着性は大である。旧図幅(地力保全昭和46年神楽町・東神楽町)では瑞穂統として設定されているが、今回の整理で東旭川地区にも瑞穂統があるのでこちらを西瑞穂統と改名した。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.W40 西御料4区波能久幸宅地先)

NM w40	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋		湿り	透水性	備 考
						糸 膜	根 状			
15	黄褐 10YR3/3	LiC	粒 質	8	大	糸 膜	根 状	湿	中	細粒グライ土 14D15
25	黒色 10Y2/2	LiC	粒 状	18	大	管 状		湿	中	
50	灰褐 10YR5/2	HC	細 塊	14	大	管 状		湿	小	
80	灰色 7.5Y6/1	HC	塊 状	21	大	な し		潤	中	グライ層
	青色 10Y6/1	SiC	塊 状	19	大	な し		潤	中	グライ層

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	4.38	24.1	20.5	26.5	28.9	LiC			
2	15~25	5.21	16.3	18.7	27.1	37.9	LiC			
3	25~50	5.99	1.6	8.6	35.8	54.0	HC			
4	50~80	4.84	4.8	18.4	31.7	45.1	HC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				5.72	0.40	14.3	9.9	5.9	4.8	5.6	856
2				7.00	0.47	14.9	12.1	6.1	5.2	1.9	1187
3				3.53	0.21	16.8	6.1	5.7	4.6	10.0	1246
4				1.78	0.05	35.6	3.1	5.5	4.1	13.1	890

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	23.8	118	28	27	17.7				1.41	
2	27.5	232	51	9	30.3				1.72	
3	40.6	144	61	13	12.7				2.44	
4	32.5	86	73	21	9.4				1.20	

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と類似する統に聖和統がある。本統より腐植層がやや薄いだけでほとんど同一の性質をもつ。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：丘陵地下の沖積低地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水透水性	作上下50cmの土性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富否	置換性石灰含量	苦土	カリ	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度	
t	d	g	p				l		r			w			f			n															
稲	III	I	I	I	III	3	3	2	I	1	2	II	2	2	2			II	1	2	3	I	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
畑	III	II	II	I	III	3	3	2							III	3	3	3	II	1	2	3	I	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
稲	III	p	II	rf			転換畑	III	wp	II	tdf																						

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

腐植層が厚いのは排水不良による有機物の未分解物が蓄積したためである。明暗渠によって排水を促進させる必要がある。

C 調査年月日：昭和47年3月 調査者：北海道立上川農業試験場 野崎輝義

## 25. 聖 台 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は西神楽地区の丘陵地上に広く分布する灰色台地土である。表土は薄く土性は細粒質で粘着性は大きい。下層土は極密の硬度を示し透水性は極めて悪い。また、根圏域が制限された土壤でもある。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.W300 旭川市西神楽）

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
灰色 5Y5/2	LiC	塊 状	23	中	系 根	半湿	中	細粒灰色台地土 07A01
灰色 2.5Y5/1	LiC	塊 状	32	大	雲 状	半湿	極小	下層は極密の硬 さ

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～17	2.03	19.2	15.2	39.9	25.7	LiC	2.58	127.3	
2	17～	1.99	25.9	19.3	28.0	26.8	LiC	2.65	157.9	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	49.3	27.3	23.4	3.09	0.15	20.6	3.4	4.9	4.5	5.6	430
2	59.6	35.6	4.8	1.39	0.05	27.8	—	5.2	5.3	5.9	1,030





## 26. 北 成 統

### A-1 土壌統の特徴

本統は東鷹栖地区から鷹栖町にかけての丘陵地周縁部台地に分布する細粒質の灰色台地土である。土性が細かいため粘着性が強い。下層が極めて緻密で構造の発達も弱く透水性が悪い。丘陵の斜面に接続する地形のところでは上部に扇状地性の礫をのせている場合もある。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.TH102 東鷹栖10線20号 水田)

HoS TH102	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
17	灰褐 10YR4/2	LiC	細 塊	7	大	糸 根	湿	小	細粒灰色台地土 07A03
35	黄褐 10YR6/3	LiC	柱 状 弱	26~27	大	膜 状	湿	小	堅密層
	黄褐色 7.5YR4/6	HC	壁 状	27	大	灰 脈 色 状	湿	小	

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~17	3.8	8.0	15.5	44.9	31.5	LiC	2.7	98	110
2	17~35	3.5	8.2	13.8	44.2	33.8	LiC	2.9	117	156
3	35~	6.3	7.0	9.5	28.2	55.3	HC	3.0	112	133

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐 植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	41	53	6	2.81	0.17	17	4.8	5.8	4.7	0.3
2	55	42	3	0.56	0.05	12	1.0	4.7	3.7	2.6
3	45	44	11	0.39	0.04	10	0.7	4.5	3.6	4.4

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)				飽和度(%)		磷酸吸 収係数	有効態(mg/100g)		遊離 酸化鉄 (%)
		Ca	Mg	K	Na	石灰	塩基		ブレイ	トルオーグ	
1	16.4	240	29	37	2	52.1	66.1	760	40.1	7.7	0.60
2	12.3	23	5	8	2	6.8	10.9	660	0.4	10.2	0.21
3	16.1	47	11	7	2	10.5	15.5	880	0.1	1.2	1.18

#### A-4 他の土壌統との関係

本統は隣接町である鷹栖町にも分布する。旭川市内では西神楽地区の聖台統とほぼ同一の土壌型である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：洪積世堆積

A-7 地形：台地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水透水性	湛作上下50cmの土性	酸化還元性の最高密度	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の豊富状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度	
t	d	g	p			l		r		w		f		n																			
稲	III	I	II	I	III	3	3	3	I	I	I	I	3	I		III	2	2	3	I	I	I	I	I	I			I	I	I	I	I	I
畑	III	II	III	I	III	3	3	3						II	3	2	2	III	2	2	3	I	I	I	I		I	I	I	I	I	I	I
稲	III	pf	II	d					転換畑	III	d	pf	II	tw																			

B-2 利用状況：水田

#### B-3 農業上の留意事項

粘着性が大きく耕耘の困難な土壌である。心土破碎、モミガラ暗渠の施工により排水促進に務めること。腐植が少なく、特に下層の塩基が少ないので有機物の施用と土壌改良材の施用を行う必要がある。

C 調査年月日：平成3年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清

## 27. 嵐 山 統

### A-1 土壌統の特徴

本統は旭川市東鷹栖地区、東旭川地区桜岡、西神楽岡地区および隣接地区の鷹栖町台地に分布するグライ台地土を取りまとめた。土性は全層とも細粒質で透水性が悪く、作土直下からグライ層が出現する。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.TH209 東鷹栖町4線20号 水田）

AR TH209	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
10	灰褐 10YR4/2	LiC	塊 状	13	大	糸 根	湿	小	細粒グライ台地土 08A03
48	黄褐 10YR6/8	HC	壁 状	15	大	雲 状	湿	小	
78	青灰 2.5Y6/2	HC	壁 状	18	大	な し	潤	小	

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	4.7	1.3	16.2	39.9	42.7	LiC	2.7	117	114
4	48~	4.7	1.2	17.4	38.7	42.7	LiC	2.7	118	129

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐 植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	42	53	5	1.43	0.12	12	2.5	5.5	4.0	0.5
4	47	50	3	1.35	0.11	12	2.3	5.7	4.0	0.8

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)				飽和度(%)		磷酸吸収係数	有効態(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)
		Ca	Mg	K	Na	石灰	塩基		プレイ	トルオーグ	
1	23.6	253	102	29	4	38.2	62.7	910	28.8	5.7	0.46
4	22.5	223	229	18	9	35.4	60.0	930	25.3	3.3	0.48

#### A-4 他の土壌統との関係

グライ台地土は灰色台地土の分布する地区で凹地になっていたり、低地から緩傾斜で台地につながる途中に分布している。従って、灰色台地土の分布地域にも島状に本統が認められる。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：洪積世堆積

A-7 地形：台地上の凹地、低地に近い台地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	耕転の土性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水分透水性	作上下50cmの土性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	物理的障害性	有害物質の有無	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度
u	d	g	p																														
稲畑	III	I	I	III	3	3	3	I	1	2	I	1	3	3				I	1	2	II	2	1	1	2	1		1	I	1	I	1	1
畑	III	II	III	I	III	3	3	3					III	3	3	3	I	1	2	2	II	2	1	1	2		1	1	I	1	I	1	1
稲	III	p	II	n			転換畑	III	pw	II	th																						

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

細粒質土壌で排水がもっとも悪い性質を備えている。モミガラ暗渠の施工により土層全体の排水を行うこと。下層土は塩基に欠け、酸性が強いので深耕する場合は土壌改良材の施用が不可欠である。

C 調査年月日：昭和61年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 横井義雄

## 28. 東 鷹 栖 東 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は石狩川沿いに分布する最も新しい沖積土である。地形としてももっとも低い位置にある。土壤型は礫質褐色低地土で土性はやや粗い。下層に礫層があるため透水性は良好である。

### A-2 代 表 的 土 壤 断 面 の 記 載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.TH104 東鷹栖東1線17号 水田)

HE TH109	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
18	暗褐色 10YR3/4	SL	細 塊	7~10	小	な し	湿	中	礫質褐色低地土 12C06
30	にぶい黄褐 10YR4/3	L	細 塊	16~18	小	な し	湿	中	
40	褐灰 10YR5/1	S	単 粒	10~12	なし	な し	半湿	大	
	5~10cmの円 礫層	S&G	単 粒		なし	な し	半湿	大	

### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~18	2.0	35.1	46.3	13.4	5.2	SL	2.7	119	118
2	18~30	3.5	2.6	61.0	26.5	9.9	L	2.8	96	100

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐 植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	43	25	32	1.34	0.13	11	2.3	5.1	3.8	0.8
2	36	46	18	1.32	0.14	10	2.3	5.5	4.2	0.5

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)				飽和度(%)		磷酸吸収係数	有効態(mg/100g)		遊離酸化鉄(%)
		Ca	Mg	K	Na	石灰	塩基		ブレイ	トルオーグ	
1	12.8	120	18	27	3	33.5	45.6	370	102.7	31.1	0.36
2	17.5	240	25	22	2	48.9	59.0	730	15.2	12.9	0.61

#### A-4 他の土壌統との関係

本統とほぼ同一の土壌統に対岸の永山地区に分布する礫質褐色低地土の北永山統があり、作土直下から礫層が出現する。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成)

A-7 地形：石狩川沿いの最低沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	湛水透水性	作上下50cmの土性	酸還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量要素	酸害性	物理的障害の有無	物理的障害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度		
	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a														
稲畑	II	I	II	I	I	I	1	2	II	3	2	I	I	3	I		II	2	I	2	II	2	1	1	1		1	I	1	I	1	1
畑	III	II	II	II	I	1	1	(2)					I	1	2	1	II	2	1	2	II	2	2	1	1		1	1	I	1	I	1
稲	II	d	l	f	n	転換畑	III	d	II	g	f	n																				

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

透水性は一般に良好であるが作土直下に圧密層がある場合は意外に透水性が不良となっている。穿孔渠による透水性改善が効果的である。また、保肥力がやや劣るので緩行性肥料の利用を考慮すること。

C 調査年月日：昭和62年3月 調査者：北海道立上川農業試験場 横井義雄

## 29. 正 光 寺 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東鷹栖地区の中央部低地にドーナツ状に分布する強グライ土を取りまとめた。作土直下からグライ層が出現する細粒質で統排水性の不良な土壤である。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.TH203 東鷹栖 6 線19号）

SJ TH203	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
14	灰褐 10YR5/2	LiC	粒	6	大	な し	半湿	中	細粒強グライ土 14A01
	青灰 7.5GY4/1	LiC	連結状	18	大	な し	湿	小	グライ層
55	青灰 7.5GY6/1	LiC	連結状	15	大	な し	潤	小	グライ層

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	5.8	5.5	41.3	35.5	17.7	CL	2.6	91	88
2	15~38	5.2	1.7	13.0	41.4	44.0	LiC	2.8	110	117
3	38~	5.4	1.1	8.3	42.4	48.2	HC	2.8	115	124

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐 植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	34	35	31	4.91	0.33	15	8.5	5.3	4.2	0.8
2	42	54	4	1.02	0.10	10	1.8	4.9	3.7	3.1
3	44	52	4	0.71	0.07	10	1.2	4.7	3.5	4.4





## 30. 東 鷹 栖 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は石狩川沿いの古い沖積面に分布する灰色低地土である。東鷹栖統(礫質低地土)より一段高い沖積面である。表層には腐植があり黒色である。土性は中～細粒質で斑紋を有する。

場所によっては下層に礫が出現することもある。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.TH108 東鷹栖基線17号 水田)

HG TH108	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
0~27	黒色 10YR2/1	CL	塊 状	6	中	なし	湿	中	細粒灰色低地土 13A01
27~50	黄褐 2.5Y5/3	CL	壁 状	23	中	雲 管 状	湿	小	
50~	灰色 2.5Y6/2	CL	壁 状	27	中	雲 状	湿	小	

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~27	3.8	12.1	37.5	28.4	22.0	CL	2.6	92	79
2	27~50	3.7	13.1	42.0	29.7	15.1	CL	2.8	126	149
3	50~	3.5	21.9	37.1	25.6	15.4	CL	2.7	129	161

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐 植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	31	63	6	4.89	0.32	15	8.4	5.2	4.1	1.3
2	54	43	3	0.43	0.05	9	0.7	5.7	4.2	1.3
3	59	39	2	0.25	0.03	7	0.4	5.5	4.0	1.3

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)				飽和度(%)		磷酸吸 収係数	有効態(mg/100g)		遊離 酸化鉄 (%)
		Ca	Mg	K	Na	石灰	塩基		ブレイ	トルオーグ	
1	28.6	209	19	23	15	26.0	32.8	1160	110.9	11.2	0.38
2	14.0	133	26	24	4	34.0	47.7	810	19.0	0.1	0.42
3	15.6	144	45	26	5	32.8	51.8	650	6.0	0.0	0.55

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する統として東旭川地区の日の出北統がある。細粒灰色低地土で水田利用の場合は特に問題はないが、転換畑では湿害を受ける恐れがある。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地 形：やや古い沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水の透水性	作上下50cmの土性	酸還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保湿度	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	(地滑りの危険度増冠水の危険度)			
t	d	g	p				l		r			w								n													
稲	II	I	II	I	II	2	3	2	I	2	1	I	2	3	1					I	1	2	2	I	1	2	1	1	1	1	1	1	1
畑	II	I	III	I	II	2	3	2							II	2	2	2	1	1	2	2	I	1	2	1	1		1	1	1	1	1
稲	III	dp																															

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

下層が緻密で構造の発達が悪い。心土破碎、暗渠の施工により排水促進を行う。

C 調査年月日：昭和56年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 山口正栄

## 31. 東鷹栖南統

### A-1 土壌統の特徴

本統は東鷹栖市街周辺に分布する礫質のグライ土である。上部の土性は細粒質で地下水位が高いため作土直下からグライ層が出現する。地表下40cm前後から礫層となり有効土層は浅い。礫は安山岩、砂岩の中～大円礫である。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.TH110 東鷹栖2線11号 水田)

HS TH110	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
13 ○ }	灰褐 10YR5/2	LiC	塊 状 弱	7	大	糸 根	湿	中	礫質強グライ土 14C10
25 x x }	灰色 10Y5/1	LiC	壁 状	15	大	管 状	湿	小	φ 5～7 cm円礫
40 ○	灰色 5Y6/1	LiC	壁 状	15	大	管 状	湿	小	グライ層

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～13	5.2	11.4	23.4	34.3	30.9	LiC	2.6	79	57
3	25～40	6.9	9.3	8.7	37.6	44.4	LiC	2.8	107	93

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐 植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	22	73	5	4.67	0.37	13	8.0	5.2	4.2	0.5
3	33	63	4	2.71	0.21	13	4.7	5.1	3.7	1.8

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)				飽和度(%)		磷酸吸収係数	有効態(mg/100g)		遊離酸化鉄(%)
		Ca	Mg	K	Na	石灰	塩基		プレイ	トルオーグ	
1	23.2	183	22	32	14	28.0	37.5	1190	72.1	12.8	0.98
3	20.3	154	36	8	6	27.0	37.5	1200	9.9	1.2	1.35

#### A-4 他の土壌統との関係

礫質のグライ土に分類される土壌統に東旭川地区の忠別統、上兵村統、千代田統等がある。表層の腐植含量に若干の差はあるが、土壌管理上これらの土壌統は同一の扱いとなる。

- A-5 母材：非固結堆積岩
- A-6 堆積様式：水積(河成沖積)
- A-7 地形：平坦な沖積低地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表上の厚さ	有効土層の深さ	表上の礫含量	耕耘の難易	耕耘の粘性	表上の粘性	表上の風乾上の堅さ	水分透水性	作上下50cmの土性	酸化還元性	の最高ち密度	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	地の乾湿度	透水性	保水性	自然肥沃度	固肥力	養分の塩基状態	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	物理的障害性	有害物質の有無	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度					
t	d	g	p																																	
稲	III	I	II	I	III	3	3	3	I	1	2	II	2	3	3			II	1	2	3	II	2	2	1	1	1		1	II	1	2	I	1	1	
畑	III	II	III	II	III	3	3	3							III	3	3	3	II	1	2	3	II	2	2	1	1		1	1	II	1	2	I	1	1
稲	III	p	II	drf	ni				転換畑	III	dpw	II	tgf	ni																						

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

地下水位が高く排水不良のため、暗渠排水、明渠排水の完備に務めること。転換畑では下層の礫が作土内にとりこまれて耕耘に支障をもたらす恐れがある。

C 調査年月日：昭和58年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 山口正栄

## 32. 鷹栖中央統

### A-1 土壤統の特徴

本統は東鷹栖地区および隣り町の鷹栖町の小河川沿いに分布する細粒グライ土である。土性は細粒質で保肥力は大きいが塩基に欠ける。強グライ土の正光寺統に隣接するがその境はあまり明瞭ではない。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.TH111 東鷹栖10線15号）

TaC TH111	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
18 x/x	黒褐 10YR3/1	LiC	細塊	13	大	糸根	湿	小	細粒グライ土 14D15
23 x/x	黒褐 10YR2/2	LiC	壁状	20	大	膜状	湿	小	
40 }	灰褐 10YR5/2	LiC	壁状	15	大	管状ム	湿	小	グライ層
56 }	灰色 2.5Y6/1	LiC	壁状	15	大	管状ム	湿	小	
}	青灰 7.5GY5/1	HC	壁状	16	大	管状ム	湿	小	

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0~18	5.8	3.9	21.1	36.0	39.0	LiC	2.7	98	89
3	23~40	6.0	0.4	19.3	38.7	41.7	LiC	2.7	107	102

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	34	61	5	3.77	0.28	13	6.5	5.0	3.9	1.8
3	37	60	3	1.91	0.17	11	3.3	4.8	3.8	3.1

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)				飽和度(%)		磷酸吸収係数	有効態(mg/100g)			遊離酸化鉄(%)
		Ca	Mg	K	Na	石灰	塩基		ブレイ	トルオ	グ	
1	29.8	170	27	35	4	20.4	27.9	1370	55.2	11.1	0.71	
3	25.9	113	24	16	4	15.6	22.1	1400	6.9	0.8	0.84	

#### A-4 他の土壌統との関係

強グライ上の正光寺統と隣接するがその境界は明瞭でない。類似する土壌統として永山地区の永山東統がある。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：小河川沿いの平坦地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾上の堅さ)	湛水透水性	湛水上下50cmの土性	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	遊離酸化鉄含有	土の乾湿度	地の乾湿度	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	(上層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(有効態リン酸)	(有効態珪酸)	(窒素)	(微量元素)	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)
t	d	g	p																													
稲	III	I	I	III	3	3	3	I	1	2	II	1	3	2			II	1	2	3	1	2	1	1	1		1	I	1	1	1	1
畑	III	II	II	I	III	3	3	3						III	3	3	II	1	2	3	1	2	1	1	1		1	I	1	1	1	1
水田	III	p	II	rf				転換畑	III	pw	II	tdf																				

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

排水不良であるため十分は排水対策を行うこと。塩基に欠けるので土壌改良材の施用につとめること。酸性が強いので転換畑では酸性矯正に留意する。

C 調査年月日：昭和58年10月 調査者：北海道立上川農業試験場 山口正栄

### 33. 藤 野 統

#### A-1 土壌統の特徴

本統は東鷹栖地区の中央部および隣町の鷹栖町にかけて分布する低位泥炭土である。現在では20～25cmの客土が行われているが、客土の少ないところでは表層が黒色の多腐植層となっている。泥炭を構成する植物はヨシであり、その分解程度は良である。

#### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.TH113 東鷹栖5線16号 水田)



土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
黒色 10YR2/1	LiC	塊 状 弱	8	大	糸 根	湿	中	泥炭土(低位) 16 01
黒色 2.5Y2/1	LiC	壁 状	17	大	糸 根	湿	小	
黒色 N1.5	LP	壁 状	15	中	な し	潤	中	分解良の泥炭
ヨシを主体の 低位泥炭層						潤	中	

#### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～13	6.2	8.0	22.6	31.7	37.3	LiC	2.6	96	83
3	24～32	11.1						2.1	63	41
4	32～	11.7						1.8	61	18

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	炭素率	腐 植 (%)	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl	
1	32	62	6	6.51	0.36	18	11.2	5.1	3.9	1.8
3	20	76	4	30.64	1.16	26	52.8	5.1	3.8	1.8
4	10	83	7	41.32	1.21	34	71.2	4.6	3.7	2.1

層位	塩基交換量 (me/100 g)	交換性塩基(mg/100 g)				飽和度(%)		磷酸吸 収係数	有効態(mg/100 g)		遊離 酸化鉄 (%)
		Ca	Mg	K	Na	石灰	塩基		ブレイ	トルオーグ	
1	35.6	294	83	28	14	29.5	44.1	1290	109.3	15.8	0.63
3	65.1	332	116	19	11	18.2	28.2	3490*	15.9	2.8	0.34
4	20.0	65	29	15	13	11.6	22.4	1800*	5.4	2.9	0.61

\* 土：液 比 1：10で測定

#### A-4 他の土壌統との関係

本図幅のなかで泥炭土は本統のみである。永山地区に射的統があるが本統のように下層まで泥炭になっているタイプではない。

A-5 母 材：植物遺体

A-6 堆積様式：集 積(低位泥炭土)

A-7 地 形：平坦な沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表上の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	表上の礫含量	表上の粘性	表上の風乾上の堅さ	水の透水性	溝作上下50cmの土性	酸化還元性	遊離酸化鉄含有	遊離酸性有機物含量	土の乾湿性	水の透水性	保水潤度	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	物理的障害性	有害物質の有無	災害性	地滑りの危険度	増冠水の危険度
t	d	g	p				l		r			w		f		n										i		a			
稲	III	II	I	I	III	3	3	3	II	3	2	II	2	3	2			II	1	2	3	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1
畑	III	III	III	I	III	3	3	3				II	1	3	3	II	1	2	3	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
水田	III	p	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

地下水位が高いので排水を十分に行うこと。転換畑利用の場合は泥炭の分解による不等沈下の生じる恐れがある。また、酸性矯正に留意すること。

C 調査年月日：昭和58年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 山口正栄



## 34. 北 永 山 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は表層に腐植層をもたないで地表下30cm以内に砂礫層の上部が出現する礫質褐色低地土をとりまとめた。土性はやや粗い。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.N131 永山裏町13丁目）



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~19	3.7	22.8	46.1	18.6	12.4	SL	2.6	112	
2	19~25	4.3	22.4	46.4	20.5	10.6	CL	2.6	122	
3	25~		砂 礫 層							

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	43.0	43.0	14.0	2.11	0.17	13	3.6	5.1	4.2		420
2	47.4	47.4	5.2	1.84	0.16	12	3.2	5.1	4.3		610
3											

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	11.1	70	14	24		33.3		7.1		
2	12.3	112	20	19		43.9		5.8		
3										

#### A-4 他の土壌統との関係

石狩川の対岸の東鷹栖地区には本統とほぼ同一の土壌型である東鷹栖東統がある。西神楽地区の忠別川沿いに分布する中央統も本統と同一の礫質褐色低地土である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：沖積(河成沖積)

A-7 地形：石狩川沿いの最新沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾土の堅さ)	湛水透水性	(作上下50cmの土性)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	土の乾湿度	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(珪酸)	(窒素)	(微量元素)	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	
t	d	g	p					l		r			w			f			n														
稲	III	I	III	I	I	1	2	1	II	3	2	I	I	I	I				III	3	2	1	2	3	2	1	1	I	I	I	I	I	I
畑		II	III	II	I	1	2	1					I	I	1	II	2	1	III	3	2	1	2	3	2	1	2	1	1	1	I	I	I
稲	III	dn	II	l				転換畑		III	dn	II	tgf																				

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

礫質土壌で一般には透水性は良好であるが踏圧を受けた部分では不透水層が形成され、礫質土壌でも排水不良となっていることもある。そのような場合は、穿孔暗渠を行って透水性改善を行うこと。土性が粗粒で保肥力に欠けるので緩行性肥料の利用を考慮する。

作土の浅い場合は客土を行う。

C 調査年月日：平成3年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清  
元北海道立天北農業試験場 後藤 計二

## 35. 永山南統

### A-1 土壤統の特徴

本統は永山地区に広く分布する腐植層が厚く礫層の出現しない褐色低地土である。腐植層は平均50cm程度の厚さを有する。土壤構造の発達は良好で透水性も良好である。本統は神居地区の深川市境にも小面積分布している。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.N81 永山3番16丁目 水田）

土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
黒色 10YR3/1	CL	粒状	15	中	なし	半湿	大	中粗粒褐色低地土 12E12
黒色 2.5Y3/1	L	壁状	22	中	糸根	湿	中	
黒色 5YR2/1	L	塊状	22	中	なし	半湿	中	
黄褐 10YR4/4	SL	塊状	24	中	なし	湿	大	
黄褐 2.5Y3/4	L	塊状 トム	20	小	なし	湿	大	

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法 土性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0~13	4.0	12.1	45.1	24.2	18.6	L	2.67	81.6	
2	13~28	4.1	9.6	46.7	29.7	14.0	L	2.58	100.7	
3	28~51	4.2	2.25	57.9	23.5	6.4	L	2.65	101.90	

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	30.6	42.4	27.0	3.95	0.22	18	6.8	4.9	4.1	2	1470
2	39.1	55.4	5.5	4.36	0.26	17	7.5	5.1	4.2	2	1580
3	38.5	54.0	7.5	1.86	0.26	7	5.2	5.3	4.2	2	1590



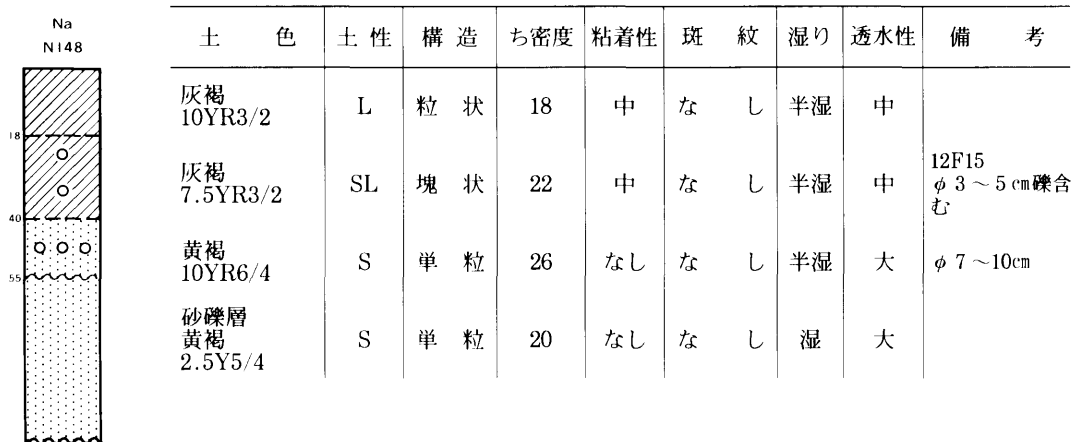
## 36. 永 山 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は永山地区に広く分布する土壤で、厚い腐植層を有し地表下30~60cm以内に砂礫層が出現する中粗粒質の褐色低地土である。土壤構造の発達は良好で透水性は良好である。礫は長径3~10cmの安山岩、砂岩の円礫である。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.N148 永山1番15丁目）



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 性 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0 ~ 18	6.6	19.1	44.5	36.4	0.0	L	2.62	95.0	
2	18 ~ 40	7.1	26.3	44.7	29.0	0.0	SL		—	
3	40 ~		砂 礫 層							

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リ ン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	36.3	56.7	7.0	4.59	0.34	14	7.9	5.3	4.7	1	1560
2				3.87	0.25	16	6.7	5.2	4.6	2	1460
3											

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	22.8	162	34	56		38	69	12.1	1.1	40.4
2	19.2	115	27	58		37	37	4.9	1.1	42.3
3										

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と隣接して南永山統がある。厚い腐植層を有することが共通点であるが、下部に砂礫層が有るか否かで本統と区別される。一般に沖積地の礫層の分布は不規則なので両者の境界を明確にすることは困難である。西神楽地区の神楽統も本統とほぼ同一の土壌統である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：成積(河成沖積)

A-7 地形：平坦な沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘性	表土の風乾土の堅さ	水分の最高密度	酸化還元性	遊離酸化鉄含有	地質の乾燥性	自然肥力	保肥力	固肥力	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	物理的障害性	有害物質の有無	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度		
t	d	g	p				l	r		w	f			n															
稲	II	I	II	I	I	1	2	2	II	3	1	I	2	2	1														
畑	III	II	III	I	I	1	2	2		(II)	1	2	2	II	1	3	3	II	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
稲	II	d	l	f	n					転換畑	III	d	II	t	(w)	f	n												

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

水田としての利用では特に問題はないが、透排水性の維持に務めること。転換畑では腐植による銅固定で麦作に銅欠乏症の発生する恐れがあるので注意すること。

C 調査年月日：昭和63年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清  
元北海道立天北農業試験場 後藤 計二

## 37. 永 山 東 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は永山地区の東縁部を流れる牛珠別川沿いに分布する灰色低地土で、下層にはグライ層が出現する。土性は粘質で粘着性が強い。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.N205 永山4条11丁目）

NaE N205	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
14	黒色 7.5YR2/2	CL	粒 質	12	中	糸 根	湿	中	細粒グライ土 14D19
27	黒色 7.5YR3/1	CL	壁 状	18	中	膜 状	湿	中	
62	黄褐 10YR4/4	CL	塊 状	20	中	雲 状	湿	中	
67	青灰 7.5GY3/1 CL	CL	塊 状	18	中	雲 状	湿	小	グライ層

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~14	4.7	22.6	30.4	22.5	24.5	CL	2.64	83.2	
2	14~27	6.0	17.6	29.5	25.2	27.7	CL	2.65	93.9	
3	27~					触感	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	29.1	67.6	3.3	2.95	0.26	12	5.1	5.2	4.4	3	1659
2	29.4	70.5	0.1	4.50	0.41	11	7.8	5.2	4.4	2	1875
3											

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	23.7	316	38	25.8		57				
2	24.1	342	48	28.2		36				
3	42.2									

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統として東旭川地区の旭山統があるが、グライ層の出現位置が本統より高く、より湿性の強いグライ土として扱っている。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地 形：河川沿いの沖積面

#### B-1 簡略分級式

	土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾上の堅さ)	湛水透水性	(作上下50cmの土性)	(%)の最高ち密度	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含有)	土の乾湿性	地の乾湿性	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(珪酸)	(窒素)	(微量元素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)		
	t	d	g	p																																	
稲	II	I	I	I	I	2	2	1	I	2	2	I	2	2	2					II	1	3	2	I	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	II	2	1
畑		I	I	I	I	2	2	1							II	2	2	1	II	1	3	2	I	1	1	1	1		1	2	I	1	1	1	II	2	1
稲	II	fa							II	wfa																											

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

水田としての利用では特に大きな問題点はないが、転換畑では周囲全体の排水性を高めるために組織的な明渠排水、暗渠排水の整備が必要である。

C 調査年月日：平成4年5月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清  
元北海道立天北農業試験場 後藤 計二



## 38. 射 的 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は永山地区の旧小河川跡の排水不良地に認められる湿性の土壤である。泥炭分解した黒泥が認められるが、圃場整備を施工したところではこの黒泥層は消滅していることもある。表層腐植含量が高く泥炭土に漸移するところもある。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.N207 永山2番11丁目）

Sya N207	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
12	黒色 7.5YR2/1	CL	粒 質	15	大	な し	湿	大	
27	黒色 7.5YR2/1	LiC	壁 状	20	大	な し	湿	中	グライ班
41	黒色 7.5YR1.7/1	LiC	塊 状	14	大	な し	湿	大	黒泥
72	黒色 7.5YR1.7/1	CL	塊 状	16	大	な し	湿	大	グライ層
	灰色 5Y2/2	SL	塊 状	12	大	な し	湿	大	グライ層

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現地
1	0~12	9.7	6.6	29.3	40.0	24.1	CL		89.2	
2	12~27	10.7	6.7	32.3	30.9	30.2	LiC		84.6	
3	27~41	21.5	10.1	25.6	39.2	25.1	LiC		51.7	
4	41~	10.5	18.5	40.7	21.5	19.3	CL		62.3	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1	32.0	60.5	7.5	5.55	0.34	16	9.7	4.8	3.9	3	1510
2	32.3	60.7	7.0	6.21	0.37	17	10.7	5.5	4.4	3	1340
3	22.0	65.0	13.0	12.50	0.72	17	21.5	5.5	4.6	3	1460
4	24.6	66.8	8.6	6.07	0.29	21	10.5	5.0	4.1	3	860

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	26.8	274	46	15.7		46	69	8.5	1.15	17.6
2	29.0	325	48	26.8		50	57	13.8	2.09	23.5
3	32.8	562	81	18.8		75	27	7.7	1.74	25.7
4	16.8	311	49	10.9		82	16	5.2	0.84	21.9

#### A-4 他の土壌統との関係

旧小河川の排水不良地を埋め立てて現在の農地となっていることから断面形態は一定していない。東旭川地区の瑞穂東統が本統に類似している。

A-5 母材：非固結堆積岩 植物遺体

A-6 堆積様式：水積 集積

A-7 地 形：旧小河川の跡

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	水透水性	湛作上下50cmの土性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥潤度	保肥力	固定力	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	有効態リン酸	珪酸	窒素	微量元素	微酸性	障害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度		
	t	d	g	p						r		w				f			n																
稲	II	II	II	I	II	2	3	2	1	1	2	II	3	2	3				I	1	2	1	II	2	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1
畑	IV	III	III	I	II	2	3	2							IV	3	1	3	II	1	2	1	III	2	1	1	2		1	3	1	1	1	1	1
稲	II	td	pr	n								IV	w	III	td	n	II	pf																	

B-2 利用状況：

B-3 農業上の留意事項

旧河川の跡地であるため周囲からの水が集まり、排水不良地となっている。組織的な排水に務めること。また、表層の鉍質土分が少ないときは客土も有効である。珪酸質資材、リン酸資材の施用に務めること。

C 調査年月日：昭和63年8月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清  
元北海道立天北農業試験場 後藤 計二

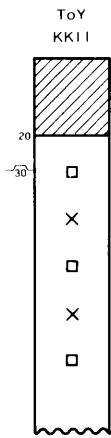
## 39. 豊 里 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は旭川市神居町豊里地区の丘陵地斜面に分布する変成岩を母材とする細粒質の灰色台地土である。全層にわたり蛇紋岩の中～大角礫を含む。伏流水の影響を受けている。

### A-2 代 表 的 土 壤 断 面 の 記 載

土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.KK11 旭 川 市 豊 里 水 田 )



土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
灰褐 10YR3/2	CL	粒 状	12	中	糸 根	湿	中	細粒灰色低地土 13A04
灰 5Y8/2	LiC	壁 状	23	大	膜 ア 状 リ	湿	中	φ 5～7 cm礫 (蛇紋岩)トム

### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～20					触感	CL			
2	20～						LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1								5.8	5.0	0.4	1210
2								6.9	5.3	0.4	850

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	24.7	331	71	23		65		16.0		
2	14.3	115	161	12		88		4.8		

#### A-4 他の土壌統との関係

隣接する土壌統に西丘統がある。この土壌統も変成岩を母材した土壌であるが、土地の利用形態が果樹園であることから区別している。

A-5 母材：変成岩

A-6 堆積様式：水積(扇状堆積)

A-7 地形：丘陵地の斜面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表上の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	(表上の粘性)	(表上の粘着性)	(表上の風乾上の堅さ)	湛水透水性	酸化還元性	(遊離酸化鉄含有)	(易分解性有機物含量)	土の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(有効態リン酸)	(有効態珪酸)	(窒素)	(微量元素)	障害性	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)								
t	d	g	p				l	r			w			f			n							i	a									
稲	II	II	I	II	2	3	3	I	1	1	1	1	1				II	1	1	2	1	1	1	2	1	II	2	1	I	1	1			
畑	III	II	II	II	2	3	3							II	2	2	2	I	1	1	1	1	1	2	1		2	1	III	3	1	I	1	1
稲	II	tpni		転換畑			III	i	II	tdgpwn																								

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

伏流水の影響が強いため斜面上部に承水路掘削し、暗渠排水を完備する必要がある。転換畑では蛇紋岩中のニッケルによる生理障害のおそれが強いため、適正なpHを維持すること、完熟堆肥の施用を行う。

C 調査年月日：昭和63年9月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清

# 40. 江 丹 別 統

## A-1 土壤統の特徴

本統は江丹別川流域の沖積面に分布するグライ土である。土性は細粒質で粘着性が強い。グライ層の出現位置は深く一部の地域では灰色低地土になる。

## A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.KK3 旭川市江丹別 水田(転換畑)）

ETN KK3	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
0	灰褐 2.5Y5/6	LiC	細 塊	15	大	な し	半湿	中	細粒グライ土
70	灰色 2.5Y7/2	LiC	細 塊	20	大	雲 状	湿	中	
70	青灰 7.5GY	HC	壁 状	18	大	管 状	湿	中	湧水面70cm グライ層

## A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~30					触感	LiC			
2	30~70						LiC			
3	70~						HC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リ ン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				1.85			3.2	5.0	3.9	8.9	1160
2								5.1	4.0	7.8	1130
3											

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	20.8	117	46	9	43		3.7			
2	21.1	185	52	14	46		4.0			
3										

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と連続して分布する土壌統に西里統がある。西里統は本統よりグライ層の出現位置が深く灰色低地土となる。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：江丹別川の沖積低地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易性	表土の粘性	表土の風乾土の堅さ	水分の透水性	湛水の透水性	作上下50cmの土性	酸化還元性の最高密度	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有度	グライ化度	地の乾湿度	土の透水性	自然保水度	自然肥沃度	保肥力	固肥力	土層の塩基状態	養分の豊富性	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	障害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)
t	d	g	p																															
稲	1	1	III	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	II	1	1	1	2	2	1	2	2	1	1	1	II	2	1
畑	1	II	I	III	3	3	2							II	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2		2	2	III	3	1	II	2	1	
稲	III	p	II	na			転換畑			III	pi	II	dna																					

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

粘質で透排水性が悪いので明渠、暗渠の完備が必要である。また、周辺が変成岩の丘陵地であることから畑作物ではニッケルの過剰障害の恐れがある。酸性矯正と堆肥の施用をおこなうこと。

C 調査年月日：昭和63年9月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清

# 41. 更 新 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は旭川市と深川市の市境を流れる内大部川流域の沖積地に分布する灰色低地土である。特徴として厚い腐植層をもつ。土性は細粒質であるが構造の発達は良好で透水性は良好である。

## A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.KK21 旭川市神居町豊里）

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
灰 N5/	LiC	粒 状	15	中	膜 状	湿	中	細粒灰色低地土 13i31
灰 N5/	LiC	細 塊	19	中	糸 根	湿	中	
灰褐 2.5Y4/2	LiC	細 塊	18	中	な し	湿	中	
灰褐 2.5Y6/2	CL	塊 状	19	中	な し	湿	中	
灰褐 5Y6/1	S	単 粒		なし		湿	大	

## A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～13	4.5	8.3	36.8	26.3	28.6	LiC			
2	13～25	5.3	5.2	37.1	32.4	25.2	LiC			
3	25～48	5.3	4.2	35.2	32.9	27.7	LiC			
4	48～78	3.4	1.7	48.2	31.2	18.7	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				5.92	0.36	17	10.2	5.5	4.3	3.1	1290
2				6.73	0.44	16	11.6	6.1	4.7	0.6	1460
3				4.41	0.31	14	7.6	5.7	4.3	4.4	1380
4								5.8	4.4	2.6	790

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	30.9	239	85	11		44.2	8.2		2.62	
2	38.9	390	159	16		60.4	2.7		2.65	
3	32.1	199	148	16		48.8	1.7			
4	13.1	94	171	9		95.3	1.7			

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じように厚い腐植層をもつ低地土として永山地区の永山南統があるが、本統より乾性型の褐色低地土である。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：内大部川の沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	表土の粘着性	表土の堅さ	表土の風乾上の堅さ	満水透水性	作上下50cmの土性	酸還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	湿度	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	酸害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	地滑りの危険度	増冠水の危険度		
t	d	g	p		l	r					w		f		n		i	a																	
稲	II	II	II	II	3	2	1	II	1	2	I	3	1	1			I	1	2	1	II	1	1	1	2	1	2	1	2	I	1	1	I	1	1
畑	II	II	II	II	3	2	1							I	2	1	1	I	1	2	1	II	1	1	1	2		1	2	I	1	1	I	1	1
稲	II	pn		転換畑	II	pn																													

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

表層、有効土層も深く、優良な農地であるが排水に務め有機物の施用をおこなうこと。

C 調査年月日：昭和63年9月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清



## 42. 吉 住 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は深川市のイルムケップ山からの流れ出る小河川流域に分布するグライ土である。下層に安山岩の円礫層が出現する礫質強グライ土である。分布面積は小さい。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.KK30 旭川市神居町豊里）



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現地
1	0~15	4.7	7.0	35.3	26.9	30.8	LiC			
2	15~32	4.6	10.9	37.6	26.7	24.8	CL			
3	32~									

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.78	0.30	10	4.8	5.4	4.2	5.0	970
2								5.9	4.7	0.8	1250
3											

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	15.2	92	33	16	36.5	20.1		2.2		
2	13.2	143	21	19	52.3	1.5		3.6		
3										

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ礫質強グライ上に東旭川地区の千代田統があるが、本統より腐植含量が多いことで区別される。下層の透水性が大きいので地域全体の排水が進むとグライ層は消滅する。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：水積(河成沖積)

A-7 地形：沢の沖積面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効上層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘性	表土の風乾土の堅さ	湛水透水性	作上下50cmの土性	酸化還元性	易分解性有機物含量	遊離酸化鉄含有	グライ化度	地の乾湿性	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	上層の塩基状態	養分の豊富	置換性石灰含量	苦土	カリ	珪酸	窒素	微量元素	微酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)		
	t	d	g	p			l		r			w			f			n									i		a						
稲	II	I	II	I	II	3	2	2	I	2	2	II	3	1	2			II	2	2	2	II	2	1	1	1	1	2	1	2	I	1	1	I	1
畑	III	II	III	I	II	3	2	2					III	3	3	2	II	2	2	2	III	2	1	1	1		1	2	I	1	1	II	2	1	
稲	II	dprfn					転換畑	III	dw	II	tpfna																								

B-2 利用状況：水田、転換畑

#### B-3 農業上の留意事項

各沢ごとの排水計画をたてて排水事業を実施すること。明渠に十分な深さを確保して暗が確実に効果を発揮するような農業土木的な考慮が必要である。

C 調査年月日：昭和63年9月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清

## 43. 東 桜 岡 西 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東旭川の北端一帯の標高 200 m 前後の丘陵地上に分布する暗赤色土である。母材は赤色珪岩類である。腐植含量は少なく、土性は細粒質である。一般に、珪岩類の風化細礫～中角礫をふくむ。下層の構造はあまり発達しておらず透水性は不良である。

### A-2 代 表 的 土 壤 断 面 の 記 載

土 壤 断 面 の 概 要 と 柱 状 図 ( 試 坑 地 点 No.176 旭 川 市 東 桜 岡 畑 )



### A-3 代 表 土 壤 断 面 の 理 化 学 性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～15	4.1	17.4	20.8	31.2	30.6	LiC			
2	15～45	4.6	16.7	27.3	22.4	33.6	LiC			
3	45～	5.0	21.1	27.2	15.2	36.5	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.07	0.20	10	3.6	5.7	4.4	1.25	878
2				0.50	0.07	7	0.9	5.0	4.0	19.7	777
3				—	—	—	—	4.9	3.9	36.0	852

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ 2	トルオグ法		
1	18.6	238	75	14	45.8		5.1			
2	13.3	98	28	14	26.3		tr			
3	14.0	64	79	19	16.4		1.1			

#### A-4 他の土壌統との関係

本統は軽度の変成を受けた赤色珪岩を母材とする暗赤色土で特異な存在である。

A-5 母材：変成岩(赤色珪岩)

A-6 堆積様式：残積積

A-7 地形：標高 140 ~ 200 m丘陵地緩斜面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾上の堅さ)	上地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(微酸要素)	(微量要素)	(有効態リン酸)	(苦土)	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(傾斜の方向)	(人為傾斜)	侵蝕度	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)		
t	d	g	p			w					f				n																					
畑	III	II	II	II	II	3	2	2	II	2	2	2	III	2	2	3	II	1	1	2	2	1	2	I	1	1	I	1	I	1	II	2				
畑	III	f	II	td	g	p	w				f				n																					

B-2 利用状況：畑、丘陵地北斜面では水田

#### B-3 農業上の留意事項

次層の pH が低いので深耕する場合は酸性矯正が必要である。また、リン酸肥沃度に欠けるのでリン酸資材、土壌改良剤の施用が不可欠である。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽 弥

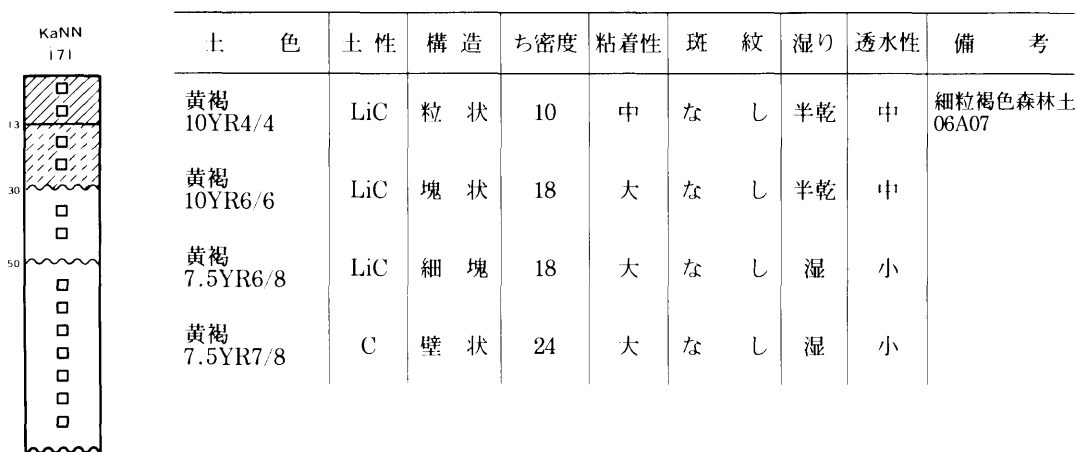
## 44. 上南部北統

### A-1 土壤統の特徴

本統は東旭川の米飯川上流部の緩傾斜地に分布する酸性褐色森林土で、安山岩の風化物を母材としている。土層は比較的膨軟であるが、最深部は均質連結状で透水性は低下する。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.171 畑）



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~13	7.5	6.6	17.5	39.8	36.1	LiC			
2	13~30	7.3	13.8	15.7	36.9	33.6	LiC			
3	30~50	7.6	11.7	20.0	36.6	31.7	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				34.8	0.34	10	6.0	5.2	4.1	8.75	1320
2				1.42	0.16	9	2.4	4.8	3.9	47.0	1491
3				—	—	—	—	4.7	3.9	71.8	1460

層位	塩基交換容 量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離 酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	32.2	521	77	42	57.8		9.1			
2	24.4	112	44	24	16.4		tr			
3	25.7	53	60	24	7.4		1.3			

#### A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する統として東京統があるが、母材が凝灰岩の軽石質であることで本統と異なる。

A-5 母材：非固結堆積岩

A-6 堆積様式：崩積

A-7 地形：標高360～420m丘陵地緩斜面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕地の粘着性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	土地の乾湿性	透水性	保水性	湿度	自然肥沃度	保肥力	固定力	養分の塩基状態	置換性石灰含量	養分の豊富さ	“苦土”	“カリ”	“有効態リン酸”	微量要素	酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(傾斜の方向)	(人為傾斜)	侵蝕度	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)	(耐風蝕性)		
	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s	e																							
畑	II	II	I	I	II	3	2	2	1	2	2	1	II	1	2	3	II	I	I	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	II	2		I	1	1	1
畑	II																																					

B-2 利用状況：畑

B-3 農業上の留意事項

次層のpHが低いので深耕する場合は酸性矯正が必要である。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥

## 45. 東 京 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は東旭川町の下南部、米原、瑞穂地区の丘陵地に分布する凝灰岩風化物の再堆積によって生成された土壤中粗粒質の酸性褐色森林土である。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.166 旭川市東旭川瑞穂）

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
黄褐 7.5YR4/4	LiC	粒 状	10	中	な し	半乾	中	中粗粒褐色森林土 06B13
黄褐 7.5YR4/6	SL	粒 状 細 塊	18	小	な し	半乾	中	
黄褐 7.5YR6/6	L	連結状	17	小	な し	半湿	中	軽石の礫を含む

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~17	5.8	13.9	25.2	32.4	28.5	LiC			
2	17~50	7.6	15.6	55.8	22.1	6.5	SL			
3	50~	4.5	30.1	22.8	33.2	13.9	L			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.87	0.38	8	4.9	5.7	4.6	1.50	1454
2				—	—	—	—	5.2	4.3	8.75	2267
3				—	—	—	—	5.3	4.2	9.25	902





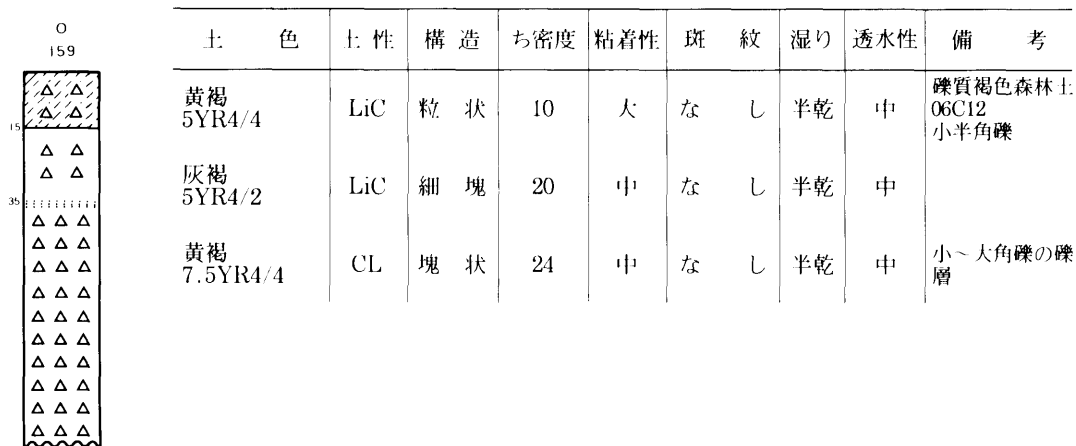
## 46. 忍 路 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は東旭川地区の旭山南部および黒岩山山ろく部に分布する褐色森林土である。表層部は土性が細かく粘着性も強い。下層は角礫を主体とする粘礫層となっている。岩質は変成岩である。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.159 旭川市東旭川忍路)



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水 分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～27	3.1	21.1	22.1	31.2	25.6	LiC			
2	27～43	3.2	19.0	20.8	33.0	27.2	LiC			
3	43～	3.3	27.5	31.4	23.5	17.6	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C:N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.90	0.20	15	5.0	5.3	4.1	10.5	835
2				1.02	0.11	9	1.8	5.3	4.1	18.0	1109
3				--	--	--	--	5.2	4.1	31.3	785

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	18.4	179	32	42	34.7		3.9			
2	13.9	78	14	19	19.9		0.3			
3	14.3	73	20	19	18.1		0.3			

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ褐色森林土に下南部南統があるが、本統の母材は変成岩であるのに対し、下南部統は凝灰岩である。

A-5 母材：変成岩

A-6 堆積様式：崩積

A-7 地形：標高200～300mの傾斜地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	表土の粘着性	表土の精着性	表土の風乾上の堅さ	地の乾湿	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	保肥力	固定力	上層の塩基状態	養分の豊富	置換性石灰含量	"苦土"	"カリ"	"有効態リン酸"	微量要素	酸害性	障害性	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(傾斜の方向)	(人為傾斜)	侵蝕度	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)		
																																			t	d
畑	III	II	III	II	II	3	2	(II)	1	1	2	II	2	2	3	II	1	1	1	2	1	2	III	1	3	I	1	1	III	3						
畑	III	dis	II	tg	p	(w)	f	n	e																											

B-2 利用状況：畑、一部山林

#### B-3 農業上の留意事項

塩基とリン酸肥沃度に欠けるので土壌改良剤の施用を行うこと。  
傾斜が急なところでは土壌侵蝕のおそれが強い。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽 弥

## 47. 下南部南統

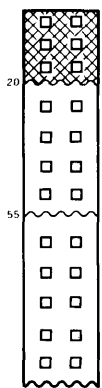
### A-1 土壤統の特徴

本統は東川町東部丘陵地を形成する安山岩を母材とする褐色森林土である。全層にわたり安山岩の風化礫を含む。本統では表層に腐植が集積しているが、農地開発の土法によってはこの腐植層が失われている場合もある。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.255 旭川市東旭川上南部 畑）

土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
灰褐 7.5YR4/2	LiC	粒状	12	大	なし	半乾	中	細粒褐色森林土 06A02
黄褐 10YR4/3	LiC	粒状塊	17	大	なし	半乾	中	
黄褐 10YR7/4	CL	細塊	20	中	なし	半乾	中	中～巨礫に頗る 富む



### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法 土性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0～20	5.1	11.6	22.2	36.3	29.9	LiC			
2	20～55	5.2	12.5	16.2	30.5	30.8	LiC			
3	55～	5.5	33.8	21.5	29.2	15.5	CL			

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				6.74	0.61	11	11.6	5.4	4.4	2.50	1391
2				1.80	0.26	7	3.1	5.6	4.2	6.50	1386
3				—	—	—	—	5.6	4.2	7.50	1375



## 48. 忍 路 東 統

### A-1 土壤統の特徴

本統は米飯山の西面山ろく部に分布する安山岩を母材とする礫を含む褐色森林土である。下層の土性は中粗粒質であるが構造の発達が悪い。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.152 旭川市東旭川追分 畑）

OE 162	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
0 18	黄褐 7.5YR3/3	LiC	粒 状	10	中	な し	半乾	中	中粗粒褐色森林土 06B14
18 35	黄褐 7.5YR3/4	SL	細 塊	20	小	な し	半乾	中	
35 55	黄褐 7.5YR5/4	SL	連結状	18	小	な し	半乾	中	
55	黄褐 10YR6/3	L	連結状	15	中	な し	半乾	中	

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~18	4.7	12.4	15.8	41.4	30.4	LiC			
2	18~35	5.9	29.7	41.7	15.2	13.4	SL			
3	35~55	5.7	30.0	43.4	24.4	2.2	SL			
4	55~	5.5	33.8	29.3	32.0	4.9	L			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リ ン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				2.95	0.26	11	5.1	5.3	4.2	7.00	1281
2				1.50	0.17	9	2.6	5.4	4.3	9.75	1783
3				1.14	0.13	9	2.0	5.3	4.3	9.75	1757
4				—	—	—	—	5.2	4.2	15.8	1369

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	20.9	264	28	113	41.9		12.8			
2	20.2	137	36	28	24.4		tr			
3	15.8	84	24	38	19.1		tr			
4	15.4	76	28	42	17.3		tr			

#### A-4 他の土壌統との関係

下部土統とほとんど同じ母材、堆積様式である。ただ本統の方が表層の腐植含量が少なく、土性がやや粗くなる。

A-5 母材：固結火成岩(安山岩)

A-6 堆積様式：崩積

A-7 地形：標高240～400mの山ろく傾斜地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕耘の粘性	表土の粘着性	表土の風乾上の堅さ	土地の乾湿性	透水性	保水性	保湿性	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	置換性石灰含量	養分の豊富否	微酸性	微量要素	酸害性	障害性	物理的障害性	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度	傾斜	自然傾斜	傾斜の方向	人為傾斜	侵蝕度	耐風性	耐水性	耐風性	
	t	d	g	p		w		f		n										i	a	s	e											
畑	III	II	II	II	II	3	2	1	1	2	1	II	1	2	2	I	1	1	1	1	2	1	1	I	1	1	III	3			II	2	2	1
畑	III	s	II	tdg	pfe																													

B-2 利用状況：畑、一部山林

#### B-3 農業上の留意事項

傾斜が急なので土壌侵蝕のおそれ強い。また角礫が存在するので耕耘には支障をとまなう。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾 欽 弥

## 49. 沼 倉 統

### A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は丘陵地緩斜面に分布するやや湿性を呈する褐色低地土である。土性は細粒質で土壤断面内に水の影響を示す斑紋がある。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.148 旭川市東旭川豊田 畑）

土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
黒色 10YR2/1	LiC	粒 状	10	大	な し	半乾	中	細粒褐色森林土 06A10
灰色 2.5Y5/2	LiC	細 塊	18	大	な し	半乾	中	1～3層に小中 角礫を含む
黄褐 7.5YR7/3	LiC	連結状	22	大	斑 状	半乾	中	
黄褐 7.5YR6/2	CL	連結状	24	大	な し	湿	小	小円礫含む

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0～20	5.3	14.7	20.1	30.5	34.7	LiC			
2	20～50	4.5	12.7	17.0	39.9	30.4	LiC			
3	50～	6.9	8.9	18.2	28.4	44.5	LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.01	0.33	9	5.2	5.7	4.7	0.75	1180
2				1.06	0.12	9	1.8	5.5	4.2	3.75	975
3				—	—	—	—	5.4	4.4	1.75	1372

層位	塩基交換容 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	25.7	398	93	52	36.5		11.3			
2	17.7	182	121	61	36.4		1.6			
3	25.4	280	270	28	39.4		tr			

#### A-4 他の土壌統との関係

本統は伏流水による影響を受けている褐色森林土である。分布面積はせまい。

A-5 母材：固結火成岩

A-6 堆積様式：水積(扇状堆土)

A-7 地形：標高で120～200mの扇状地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕地の粘着性	表土の乾湿	表土の風乾上の堅さ	透水性	保水性	自然肥沃度	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	苦土	カリ	微量要素	酸害性	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	侵蝕度	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)			
	t	d	g	p		w			f			n								i		a		s				e						
畑	III	II	II	II	II	3	2	2	III	3	2	3	II	1	2	2	I	1	1	1	1	2	I	1	1	1	1	II	2		II	2	1	1
畑	III	w	II	td	g	p	f	s	e																									

B-2 利用状況：畑

B-3 農業上の留意事項

斜面上部からの伏流水の影響を受けるので農地周囲に承水路の設置と農地内には暗渠の施工が求められる。

C 調査年月日：昭和41年3月 調査者：北海道立中央農業試験場 高尾欽弥



## 50. 八千代ヶ岡統

### A-1 土壤統の特徴

本統は美瑛町から続く熔結凝灰岩を材とした中粗粒質の褐色森林土である。乾燥時には作土層まで非常にち密になる。湿害も干ばつ害も受ける土壤である。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No. W302 旭川市西神楽新開 畑）

Y w302	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
15	灰褐 7.5YR2/2	CL	粒 状	24	中	な し	半乾	中	細粒褐色森林土 06B12
40	黄褐 7.5YR3/4	L	細 塊	27	小	な し	半乾	大	
	黄褐 10.0YR5/4	SL	単 粒	30	なし	な し	乾	中	

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~15	2.30	41.4	14.6	25.7	18.3	CL	2.63	114.3	
2	15~40	3.03	41.3	20.9	29.5	8.3	L	2.86	105.4	
3	40~	2.37	56.6	12.8	22.1	8.4	SL	—	—	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.70	0.20	18.5	6.38	5.5	5.0	1.88	1260
2				2.37	0.12	19.8	4.08	5.7	4.9	3.13	1737
3				1.03	0.06	17.2	1.77	5.4	4.8	3.75	1088

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	18.1	98	31	37	19.3					
2	21.3	53	6	25	9.0					
3	11.3	21	5	40	6.6					

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と類似する土壌統は千代ヶ岡統である。細粒質であることと腐植層がやや厚いことが本統と異なるほとんど同一の統である。

A-5 母材：非固結火成岩

A-6 堆積様式：残積

A-7 地形：波状丘陵地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易性	耕地の粘着性	表土の乾湿性	表土の風乾上の堅さ	透水性	保水性	湿潤度	自然肥沃度	固肥力	固定力	養分の豊富性	置換性石灰含量	苦土	カリ	微量要素	酸要度	障害性	物理的障害性	有害物質の有無	災害性	増冠水の危険度	地滑りの危険度	自然傾斜	傾斜の方向	人為傾斜	侵蝕度	耐風蝕性	耐水蝕性			
	t	d	g	p		w				f				n						i		a			s						e			
畑	III	II	III	I	II	2	2	2	2	2	III	2	2	3	II	3	1	1	1	2	2	II	1	2	II	2	2	II	2		III	3	2	2
畑	III	df	II	tpwnias																														

B-2 利用状況：畑

B-3 農業上の留意事項

下層が硬くて不透水層となりまた干ばつ時では水分上昇を妨げる制限層ともなっている。有機物を充てんする改良有材心土耕を行って排水性と保水性を高める改良が必要である。

C 調査年月日：昭和47年3月 調査者：北海道立上川農業試験場 野崎輝義

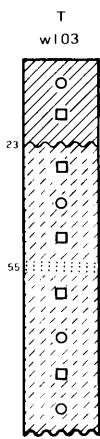
## 51. 千代ヶ岡統

### A-1 土壌統の特徴

本統は西神楽地区の丘陵地上に分布する主として畑利用の土壌のうち全層に渡って腐植があるものを取りまとめた。下層はち密で有効土層には成り難く生産性の低い土壌である。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No. W103 旭川市 5 線16号 畑）



土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
黒色 10.0YR3/1	LiC	粒状	18	大	なし	半乾	中	細粒褐色森林土 06C05
灰褐 10.0YR6/2	CL	塊状	26	大	なし	半湿	中	
黄褐 10YR6/4	LiC	塊状弱	29	大	なし	湿	小	

### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒径組成 (%)				国際法 土性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0~23	3.98	17.5	14.7	27.9	40.0	LiC	2.56	97.7	
2	23~55	1.82	30.6	13.7	31.7	24.0	CL	2.80	143.0	
3	55~	2.25	18.8	13.8	38.7	28.7	LiC	—	—	

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				7.53	0.38	19.8	13.0	4.9	4.7	8.8	813
2				2.03	0.08	25.4	3.5	5.2	4.9	5.6	325
3				1.73	0.03	57.7	3.0	5.2	4.7	11.3	220



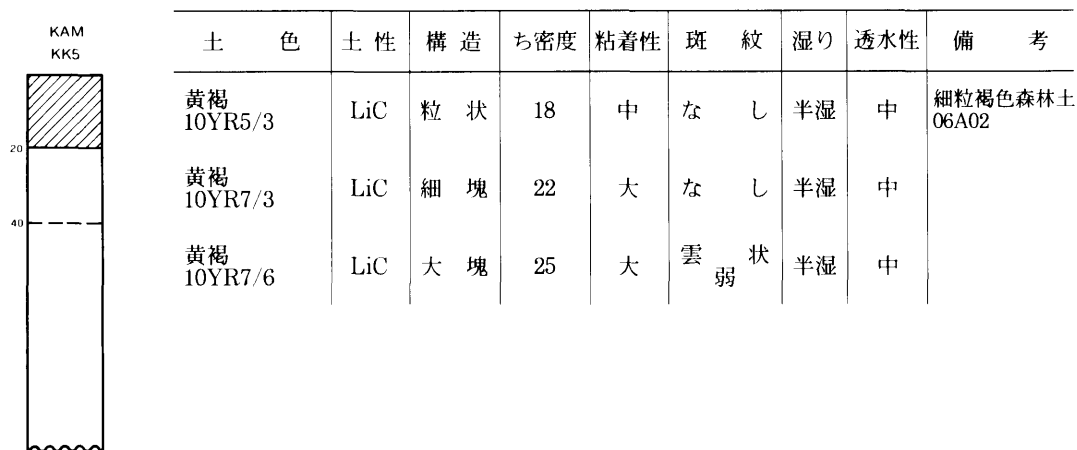
## 52. 神 居 統

### A-1 土壌統の特徴

本統は旭川市神居町共栄の丘陵地上に分布する凝灰岩を母材とする細粒褐色森林土である。土性は細粒質で粘着性が大きい。母材自体の粒径が細かいので粘土化が進んでいる。断面下部には弱い雲状の斑紋が認められる。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.KK5 旭川市神居町共栄 畑）



### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~20					触感	LiC			
2	20~40						LiC			
3	40~						LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1								5.2	4.3	4	840
2								5.2	4.3	8	720
3								5.2	4.2	15	590

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	14.3	115	22	33		42		7.2		
2	9.9	59	42	13		32		tr		
3	10.5	59	52	10		31		tr		

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ凝灰岩を母材とする土壌統に八千代ヶ岡統があるが、母材の粒径が粗く乾性型の土壌となっている。

A-5 母材：非固結火成岩

A-6 堆積様式：残積

A-7 地形：波状丘陵地

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾土の堅さ)	土の乾湿性	(透水性)	(保水性)	(湿润度)	自然肥沃力	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊否	(置換性石灰含量)	(微酸要素)	(有効態リン酸)	(苦土)	(カリ)	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(侵入)	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)		
t	d	g	p		w		f		n		i	a	s	e																					
畑	II	II	I	I	II	3	2	2	I	2	2	2	II	2	1	3	II	1	2	2	2	2	2	I	1	1	I	1	1	II	2				
畑	II	tpfns																																	

B-2 利用状況：畑、草地

#### B-3 農業上の留意事項

母材自体がガラス質で塩基に欠けるので土壌改良材の施用に務める。下層土は特に塩基が欠乏している。保肥力が小さいので有機物の施用により保肥力の増加を促す。リン酸肥沃度にも欠ける。

C 調査年月日：昭和63年9月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清

# 53. 拓 北 統

## A-1 土 壤 統 の 特 徴

本統は旭川市の西縁部に連なる変成帯丘陵地上に分布する褐色森林土である。土性は細粒質で粘着性が強い。また、下層は緻密で透水性が小さく、弱い斑紋が形成されている。

## A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.KK20 旭川市江丹別拓北 畑)



## A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0~23	12.6	13.2	14.0	36.2	36.6	LiC			
2	23~70	8.6	18.0	17.0	39.3	25.5	LiC	2.65		
3	70~									

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置換 酸度	リン 酸 吸収係数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				1.73			3.0	5.1	4.2	13	1060
2	53.0	36.5	10.5					5.0	4.0	34	1070
3								4.4	4.0	38	1070





# 54. 西 里 統

## A-1 土壌統の特徴

本統は旭川市江丹別地区の江丹別川およびその支流西里川の上流部に分布する灰色低地土である。河川の近傍では土層内に石礫を含むことがある。また、丘陵地との境では扇状地形となり伏流水の影響を受けている。

## A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.KK2 旭川市江丹別西里 畑）



## A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0 ~ 32					触感	LiC			
2	32 ~ 75						LiC			
3	75 ~						LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				3.0			5.2	6.0	4.8	0.8	1270
2				0.9			1.7	4.8	4.0	37.8	1470
3											



## 55. 神居古潭統

### A-1 土壤統の特徴

本統は旭川市神居古潭地区の河川沖積地と丘陵地との境界部に分布する褐色森林土である。土層全体が上部斜面からの崩落と移動で堆積した母材で、片岩の角礫を多量に含んでいる。土地利用は果樹園が多い。

### A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図（試坑地点 No.KK10 旭川市神居古潭 樹園地）

Kk0 Kk10	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
	黒色 10YR3/1	L	粉状	18	中	なし	半湿	中	中粗粒褐色森林土 06B02
	黄褐 10YR6/4	SL	細塊 下	20	中	なし	半湿	大中	φ1~3cm 片岩角礫トム
	黄褐 10YR7/4	LS	大塊	25	中	なし	半湿	中	φ1~3cm 片岩角礫トム

### A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重 g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0~25					触感	L			
2	25~						SL			

層位	3相分布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リン酸 吸収係数
	固相	液相	気相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1				5.9			10.2	6.9	6.2	0.2	1090
2				0.6			1.0	6.9	6.0	0.4	940

層位	塩基交換量 (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸(mg/100g)		遊離酸化鉄 (%)	有効態珪酸 (mg/100g)
		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	石灰	塩基	ブレイ2	トルオグ法		
1	41.7	1037	137	80	109		121			
2	26.2	544	71	38	92		43			

#### A-4 他の土壌統との関係

本統と隣接する土壌統に西丘統がある。西丘統は本統よりも母材の影響を強くうける変成岩上の残積土であり、また土性がより細粒質である。

A-5 母材：変成岩

A-6 堆積様式：崩積

A-7 地形：崩積性の緩斜面

#### B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表上の厚さ	有効土層の深さ	表上の礫含量	耕耘の難易	耕地の土性	表上の粘着性	表上の風乾上の堅さ	土地の乾湿性	透水性	保水性	湿润度	自然肥沃度	保肥力	固定力	上層の塩基状態	養分の豊富	置換性石灰含量	“苦土”	“カリ”	“有効態リン酸”	微量要素	酸害性	有害物質の有無	物理的障害性	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(傾斜の方向)	(人為傾斜)	侵蝕	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)		
	t	d	g	p		w		f		n																										
畑	II	I	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	II	2	I	I	I	I	I	I		II	2	I	I
樹園地						II																														

B-2 利用状況：果樹園(りんご)

B-3 農業上の留意事項

表層に塩基が著しく集積している場合があるので土壌診断を活用すること。

C 調査年月日：昭和69年9月 調査者：北海道立上川農業試験場 木村 清

## 56. 西 丘 統

### A-1 土壌統の特徴

本統は神居地区の神居山麓斜面一帯に分布する変成岩を母材とする褐色森林土である。土性は粘質で下層土は片岩の角礫を含む粘礫層である。伏流水の影響で湿性が強い。

### A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図（試坑地点 No.KK9 旭川市神居古潭西丘 樹園地）

NSK KK9	土 色	土 性	構 造	ち密度	粘着性	斑 紋	湿り	透水性	備 考
	黄褐 2.5Y4/3	LiC	粒 状	18	大	な し	半湿	中	礫質褐色森林土 06C15 φ1~7cm 角礫、蛇紋岩
	黄褐 2.5Y3/4	LiC	塊 状	25	大	雲 状 弱	半湿	小	
	灰褐 2.5Y3/2	LiC							
	角礫層			φ 1 ~ 3 cm、5 ~ 7 cm角礫層					片岩、蛇紋岩

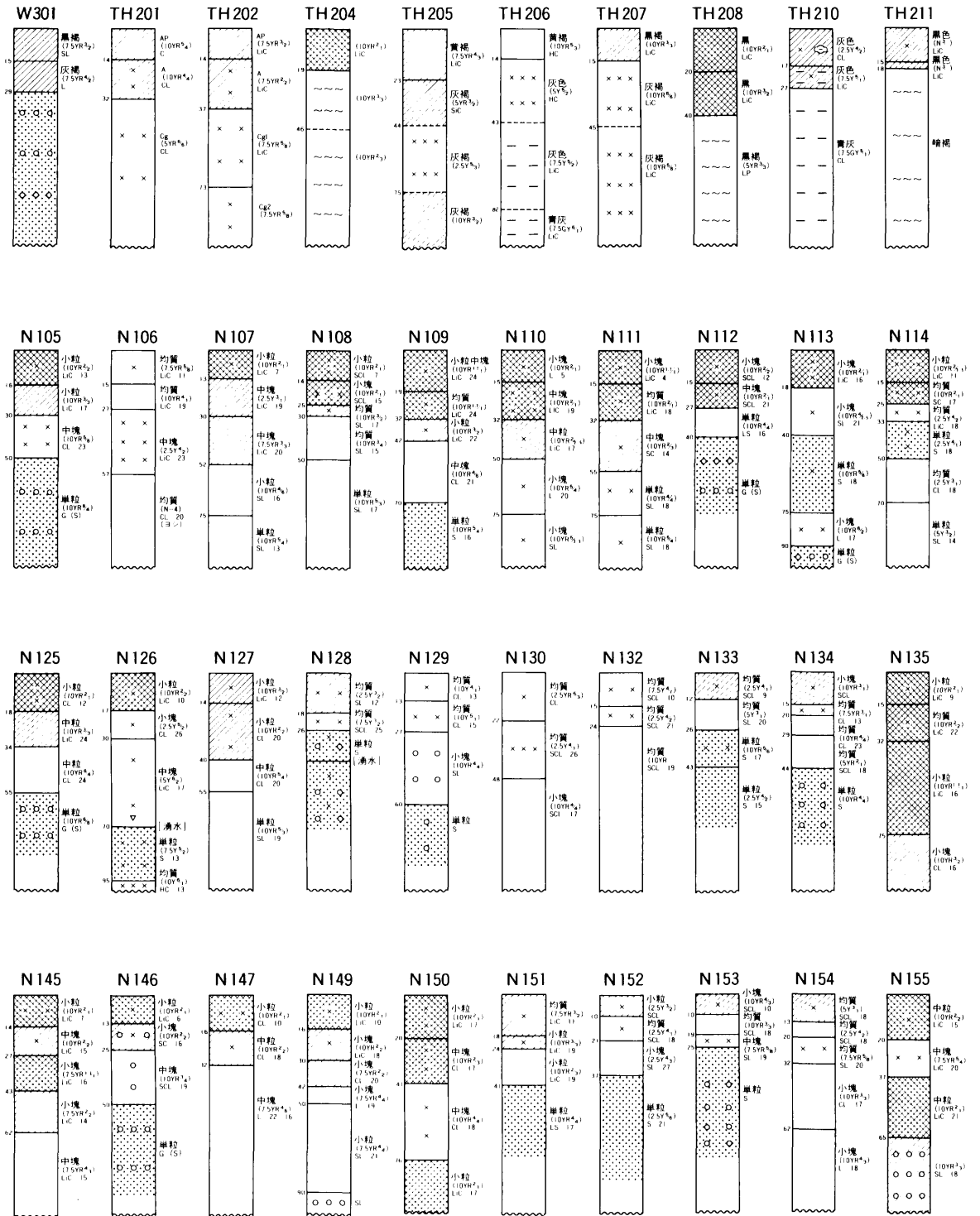
### A-3 代表土壌断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国 際 法 土 性	真比重	容積重 g / 100ml	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			風乾土	現 地
1	0 ~ 25					触感	LiC			
2	25 ~ 60						LiC			
3	60 ~						LiC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐 植 (%)	pH		置 換 酸 度	リ ン 酸 吸 収 係 数
	固 相	液 相	気 相					H <sub>2</sub> O	KCl		
1								6.0	4.9	0.3	1110
2								5.7	4.1	4.2	860
3											



### III. 参考地点の土壤断面柱状図







#### IV. 代表地点、参考地点の土壌分析値一覧

地点番号 — 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布						pH		
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O	KCl	
12-1	0~10	8.3	8.8	27.1	30.4	33.8	LiC								5.2	4.3
-2	10~21	11.4	8.7	29.0	33.7	29.6	LiC								5.6	4.7
40-1	0~9	6.6	6.2	22.0	33.7	38.1	LiC								5.1	4.1
-2	9~14	—	6.8	22.2	33.3	37.7	LiC								5.4	4.4
-3	14~34	—	8.6	30.3	30.2	31.0	LiC								5.4	4.4
-4	34~	—	10.9	34.0	27.9	27.3	LiC								5.1	4.1
49-1	0~13	9.5	8.3	34.3	32.3	25.1	LiC								5.5	4.4
-2	13~18	11.6	7.2	34.1	36.5	22.2	CL								5.5	4.4
-3	18~30	9.4	8.4	54.8	29.9	7.0	L								5.7	4.6
-4	30~46	6.1	19.7	68.5	11.8	0.0	S								5.9	4.9
52-1	0~11	6.4	16.3	37.0	29.4	17.3	CL								5.7	4.8
-2	11~21	9.3	12.9	43.2	32.2	11.7	L								5.9	5.0
-3	21~32	11.7	8.7	37.7	34.1	19.5	CL								5.9	4.9
55-1	0~14	9.9	9.6	26.7	31.4	32.1	LiC								5.1	4.2
-2	14~20	10.3	7.0	22.4	29.6	36.0	LiC								5.3	4.4
-3	20~32	—	6.8	13.9	34.6	50.7	HC								5.0	4.1
-4	32~	—	13.7	26.8	24.2	35.4	LiC								4.7	3.7
59-1	0~11	6.9	5.6	45.1	25.7	23.7	CL								5.3	4.4
-2	11~15	7.0	4.5	45.0	22.6	27.8	LiC								5.6	4.7
-3	15~26	—	4.7	58.9	18.0	18.4	SCL								5.9	4.8
-4	26~	—	3.6	56.8	19.7	13.9	SCL								5.2	4.0
65-1	0~14	12.4	11.3	24.1	31.6	33.1	LiC								5.2	4.4
-2	14~24	12.9	10.5	24.7	31.4	33.4	LiC								5.4	4.6
83-1	0~13	11.0	9.2	35.3	33.1	22.5	CL								5.5	4.4
-2	13~21	11.9	7.0	55.2	29.3	8.0	L								5.9	4.9
-3	21~37	6.0	10.8	71.5	16.8	0.9	SL								6.1	5.1
-4	37~61	—	15.7	76.1	8.2	0.0	S								6.2	5.2
86-1	0~13	4.7	4.6	39.3	35.7	20.5	CL								5.1	4.1
-2	13~23	—	4.5	33.9	33.5	28.2	LiC								6.1	5.0
-3	23~40	—	9.8	45.9	26.0	18.3	CL								6.2	5.1
-4	40~	—	10.7	41.3	27.9	20.2	CL								6.0	4.7
87-1	0~11	8.0	7.2	30.1	31.9	30.8	LiC								5.5	4.4
-2	11~18	6.3	5.6	27.9	32.9	33.6	LiC								5.8	4.6
-3	18~23	—	2.2	20.9	42.7	34.1	LiC								5.7	4.5
-4	23~38	—	1.4	36.9	40.1	21.6	CL								5.6	4.4
116-1	0~11	7.1	9.8	38.6	27.8	23.9	CL								5.1	4.2
-2	11~15	6.0	9.4	35.8	28.3	26.6	LiC								5.7	4.7
-3	15~34	—	8.4	43.9	28.5	19.2	CL								6.2	5.1
-4	34~48	—	1.7	39.3	34.1	24.9	CL								5.8	4.7
148-1	0~20	5.2	14.7	20.1	30.5	34.7	LiC								5.7	4.7
-2	20~50	1.8	12.7	17.0	39.9	30.4	LiC								5.5	4.2
-3	50~	—	8.9	18.2	28.4	44.5	LiC								5.4	4.4
159-1	0~12	5.3	7.0	15.9	35.1	42.0	LiC								5.3	4.2
-2	12~32	—	8.3	9.6	49.9	32.2	SiC								5.2	3.9
-3	32~	—	2.2	27.0	33.8	16.7	CL								5.2	3.9
162-1	0~18	5.1	12.4	15.8	41.4	30.4	LiC								5.3	4.2
-2	18~35	2.6	29.7	41.7	15.2	13.4	SL								5.4	4.3
-3	35~55	2.0	30.0	43.4	24.4	2.2	SL								5.3	4.3
-4	55~	—	33.8	29.3	32.0	4.7	L								5.2	4.2
164-1	0~18	5.5	28.1	38.3	27.1	6.5	SL								6.4	5.3
166-1	0~17	4.9	13.9	25.2	32.4	28.5	LiC	96.0		68.3	31.7	40.1	79.9		5.7	4.6

置換 酸度Y <sub>1</sub>	有機物			塩基交 換容量 (me/100g)	交換性塩基100g中			飽和度 (%)	リン酸 吸収 係 数	アンモニア 態窒素 生成量 (mg/100g)	有効態リン酸		有効態 ケイ酸 (mg/100g)	遊離 酸化鉄 (mg/100g)	備考
	全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N比		CaO (mg)	MgO (mg)	K <sub>2</sub> O (mg)				プレイ2法	トル オーグ法			
4	5.17	0.45	11	17.9	17.2	48.9	19.2	34.3	1468	20.1	13.4		18.7	1.59	千代田
1	7.07	0.61	12	36.2	33.2	51.6	6.7	32.7	1539		7.4				
5	3.82	0.35	11	20.5	21.2	33.9	17.0	38.5	987	20.4	17.1		13.9	1.11	上兵村
2				22.1	247.0	42.9	10.4	39.9	877		8.8		17.0		
				13.7	217.3	52.6	131.0	56.6	767		1.7		24.4		
				13.3	187.9	86.7	21.9	50.4	727		2.3		37.5		
	5.50	0.40	14	25.4	242.8	31.4	30.2	34.1	1418	10.9	10.9		17.2	1.37	共栄
	6.77	0.49	14	30.0	369.2	44.4	25.1	32.0	1581		3.2		16.0		
	5.45	0.40	14	24.3	222.4	37.1	29.4	32.6	2075		1.4		30.6		
	3.54	0.28	13	17.1	107.7	16.9	16.2	22.5	2173				80.4		
	3.73	0.28	13	19.8	222.4	45.8	29.6	40.1	1783	6.6	5.0		57.8	1.41	旭正
	5.42	0.38	14	23.5	248.4	34.5	24.4	37.7	2185		4.3		51.5		
	6.79	0.49	14	28.4	315.5	45.4	21.9	39.6	2038		4.9		48.5		
	5.74	0.39	15	26.3	255.5	25.6	25.9	34.6	1364	22.3	5.6		22.9	3.55	日の出
	5.79	0.44	14	29.7	333.1	56.0	16.6	41.5	1309				22.0		
				25.6	309.8	70.8	11.7	43.2	985				35.9		
				23.0	288.3	96.6	14.6	44.6	963				43.6		
	4.00	0.37	11	22.2	262.5	54.4	32.0	42.2	1153	20.1	13.4		18.7	1.59	米飯
	4.09	0.37	11	22.0	327.2	57.5	20.6	53.0	1233		7.4		21.6		
				14.6	206.1	56.0	16.6	50.3	1204		1.6		29.2		
				15.7	161.5	84.9	13.8	36.7	867		1.6		33.3		
	7.22	0.59	12	28.0	355.0	54.4	53.9	45.2	1267	30.1	10.2		15.7	1.30	忠別
	7.51	0.62	12	30.3	426.5	65.5	16.3	50.2	1299		8.7		18.9		
	6.41	0.47	14	28.2	266.4	45.8	25.8	33.7	1733	9.6	10.6		23.8	1.34	
	6.89	0.50	14	29.5	201.3	36.9	25.6	24.3	2422		1.1		89.3		
	3.46	0.27	13	16.4	103.5	17.9	26.0	22.5	2205		0.8		71.2		
				9.9	45.9	15.1	22.5	20.8	1502		1.3		58.5		
	2.72	0.26	10	21.6	248.7	48.1	18.9	41.1	1114	16.2	8.6		22.0	1.28	北日の出
				23.3	408.0	12.5	12.5	62.4	1160		3.8		24.6		
				18.5	326.7	15.1	15.1	63.0	1009		2.1		30.6		
				19.8	310.4	24.4	24.4	55.9	1007				30.8		
	4.63	0.33	14	24.4	249.6	68.3	19.0	36.5	1397	13.9	2.9				桜岡
	3.69	0.30	12	25.1	326.1	97.2	11.7	46.3	1314		4.6				
				17.4	224.6	73.7	15.3	46.0	1318		1.7				
				16.5	198.5	65.3	12.4	12.9	1265		1.5				
	4.12	0.33	12	21.1	190.1	42.5	18.4	32.1	1133	20.5	17.6		17.3	2.01	旭山
	3.48	0.31	11	22.4	305.1	46.2	12.6	48.6	1314		5.2		18.0		
				12.9	207.5	61.9	20.2	57.4	954		1.1		31.2		
				14.5	197.1	79.0	24.8	48.5	961		2.3		46.4		
	3.01	0.33	9	25.7	398.2	92.7	51.8	36.5	2180			11.3			倉沼
	1.06	0.12	9	17.7	182.3	121	61.3	36.4	975			1.6			
				25.4	280.0	270	28.3	39.4	1372			0.4			
	3.08	0.33	9	23.9	283.2	66.5	98.9	42.3	847			7.5			忍路
				11.5	95.3	32.3	18.8	29.9	587			1.2			
				9.2	72.9	38.3	14.1	28.2	555						
	7.0	2.95	0.26	11	20.9	246.8	28.2	113	41.9	1281			12.8		忍路東
	9.7	1.50	0.17	9	20.2	137.4	36.3	28.3	24.4	1783			tr		
	9.7	1.14	0.13	9	15.8	84.1	24.2	37.7	19.1	1757			0.4		
	15.7				15.4	75.7	28.2	42.4	17.3	1369			tr		
	0.3	3.17	0.29	11	20.5	274.8	20.2	56.5	63.8	1240			8.8		
	1.5	2.87	1.38	8	20.7	277.6	10.1	80.1	48.0	1454			2.8		東京

地点番号 — 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布						pH	
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O	KCl
166-2	17~50		15.6	55.8	22.1	6.5	SL	95.9		79.0	21.0	47.4	90.1	5.2	4.3
	-3 50~		30.1	22.8	33.2	13.9	L	97.6		89.0	11.0	63.8	74.8	5.3	4.2
171-1	0~13	6.0	6.6	17.5	39.8	36.1	LiC							5.2	4.1
	-2 13~30	2.4	13.8	15.7	36.9	33.6	LiC							4.8	3.9
	-3 30~50		11.7	20.0	36.6	31.7	LiC							4.7	3.9
174-1	0~14	5.6	28.3	23.0	25.1	23.6	CL							6.2	5.2
	-2 14~20	3.2	29.6	34.7	18.4	8.3	SL							5.1	4.3
176-1	0~15	3.6	17.4	20.8	31.2	30.6	LiC							5.7	4.4
	-2 15~45	0.9	16.7	27.3	22.4	33.6	LiC							5.0	4.0
	-3 45~		21.1	27.2	15.2	36.5	LiC							4.9	3.9
203-1	0~15	6.3	8.2	22.8	40.1	28.9	LiC							6.0	5.0
	-2 15~22		8.2	10.2	23.4	38.5	LiC							6.2	5.3
	-3 22~45		14.2	32.5	32.7	20.6	CL							4.9	3.9
204-1	0~12	4.7	2.3	26.6	37.6	33.5	LiC							5.1	4.1
	-2 12~20	0.9	5.6	48.0	28.6	17.8	CL							6.1	4.7
	-3 20~45		1.1	34.3	32.8	31.8	LiC							6.1	4.9
206-1	0~15	2.8	16.0	37.5	27.2	19.3	CL							5.1	4.0
	-2 15~27		15.6	31.0	30.9	22.5	CL							5.4	4.3
	-3 27~45		8.6	30.5	35.7	25.2	CL							5.1	4.2
210-1	0~12	4.6	11.6	21.2	36.1	31.1	LiC							5.5	4.4
	-2 12~38	3.6	11.1	25.7	30.4	32.8	LiC							5.9	4.7
	-3 38~		14.4	25.3	35.5	24.8	LiC							5.0	3.8
230-1	0~11	5.8	19.8	35.0	21.0	24.2	CL							5.2	4.0
	-2 11~18	2.7	22.0	49.7	14.7	13.6	SL							5.8	4.6
233-1	0~15	7.9	17.7	33.6	23.1	25.6	LiC							5.0	4.0
	-2 15~35		10.5	12.4	31.0	26.6	LiC							5.2	4.1
239-1	0~12	3.4	15.3	22.6	35.0	27.1	LiC							5.1	4.1
	-2 12~20		16.5	19.1	36.3	28.1	LiC							5.4	4.2
	-3 20~45		23.1	14.0	34.5	28.4	LiC							6.2	4.9
245-1	0~14	5.1	19.3	20.1	30.8	29.8	LiC							5.6	4.5
	-2 14~		28.5	18.4	30.7	22.4	CL							5.8	4.4
248-1	0~12	3.0	23.2	28.9	27.0	20.9	CL							5.7	4.6
	-2 12~22	1.8	5.9	39.3	30.9	23.9	CL							6.2	5.0
	-3 22~40		3.3	39.7	34.3	22.7	CL							5.8	4.5
255-1	0~20	11.6	11.6	22.2	36.3	29.9	LiC							5.4	4.4
	-2 20~55	3.1	12.5	16.2	30.5	30.8	LiC							5.6	4.2
	-3 55~		33.8	21.5	29.2	15.5	LiC							5.6	4.2
280-1	0~25	3.9	36.9	13.7	27.9	21.6	CL	102.3	2.5					5.4	4.4
	-2 25~65		49.5	13.4	24.0	13.1	L							5.5	4.4
	-3 65~		79.0	10.0	4.2	6.8	LS							5.4	4.5
281-1	0~12	13.2	7.7	46.1	26.7	19.5	CL							5.9	
	-2 12~30	5.8	9.4	55.1	20.3	15.2	CL							6.3	
304-1	0~20	4.15	38.5	27.0	18.7	15.8	SCL								
351-1	0~18	6.3	7.2	30.1	31.9	30.8	LiC							5.5	4.5
	-2 18~55		5.6	27.9	32.9	33.6	LiC	118	2.58	46.0	50.6	3.4	59.0	5.8	4.6
	3 55~		2.2	20.9	42.7	34.1	LiC	125	2.58	48.2	51.7	0.1	51.8	5.8	2.0
352 1	0~12	5.8	9.6	26.7	32.4	32.1	LiC							5.1	4.2
	-2 12~55		6.8	13.9	34.9	50.7	HC	130	2.57	50.6	46.7	2.7	49.4	5.0	4.1
	-3 55~		13.7	26.8	24.2	35.4	LiC	139	2.69	51.5	47.7	0.8	48.5	4.7	3.7
W19 -1	0~15	5.93	21.1	27.8	26.9	24.2	CL							5.0	4.6
	-2 15~40	6.06	19.5	31.7	27.3	21.5	CL							5.5	4.9
	-3 40~	4.53	79.6	13.5	5.6	1.3	S							5.2	4.9
W40 -1	0~15	9.9	24.1	20.5	26.5	28.9	LiC							5.9	4.8
	2 15~25	12.1	16.3	18.7	27.1	37.9	LiC							6.1	5.2

置換 酸度Y <sub>i</sub>	有機物			塩基交 換容量 (me/100g)	交換性塩基 100g中			飽和度 (%)	リン酸 吸収 係 数	アンモニア 態窒素 生成量 (mg/100g)	有効態リン酸 (mg/100g)		有効態 ケイ酸 (mg/100g)	遊離 酸化鉄 (mg/100g)	備考
	全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N比		CaO (mg)	MgO (mg)	K <sub>2</sub> O (mg)				ブレイ2法	トール オーグ法			
8.7				20.3	36.5	10.1	70.7	6.3	2267			1.4			
9.2				8.9	39.3	14.1	33.0	15.7	902			0.8			
8.7	3.48	0.34	10	32.2	521.0	76.6	42.4	57.8	1320			9.1			上南部北
47.0	1.42	0.16	9	24.4	112.2	112	23.3	16.4	1491			tr			
71.7				25.7	53.3	60.5	23.3	7.4	1460			1.3			
0.3	3.23	0.33	10	22.1	440.2	24.2	37.7	71.3	1311			1.7			
8.5	1.86	0.26	7	19.2	61.7	26.2	33.0	11.2	1892			0.6			
1.2	2.07	0.20	10	18.6	238.3	238	14.1	45.8	878			5.1			東桜岡西
19.7	0.5	0.07	7	13.3	13.3	98.1	14.1	26.3	777			tr			
36.0				14.0	14.0	64.5	18.8	78.6	852			1.1			
0.3	3.67	0.24	15	24.1	364.5	54.4	34.8	54.0	1107	25.3	1.5			1.46	東桜岡
0.3	4.74	0.31	15	26.6	487.9	58.5	122	65.4	1093	11.7	3.5			1.44	
26.3				12.6	64.5	32.3	42.4	18.3	693		0.8			1.460	
6.3	2.74	0.26	11	20.6	213.1	66.5	51.8	37.0	994	22.3	0.5			1.24	
0.7	0.51	0.06	9	13.6	207.5	78.6	14.1	54.0	666	3.2	0.8			1.23	
0.5				15.7	238.3	82.7	28.3	53.9	845		0.8			1.33	
7.7	1.63	0.22	7	16.8	120.6	36.3	18.8	25.8	850	18.1	3.4			1.08	桜岡南
2.2				15.3	179.5	44.4	14.1	41.8	858	13.6	0.6			1.46	
2.2				27.4	252.4	44.4	18.8	32.9	1109		9.5			0.95	
2.0	2.69	0.23	12	17.5	162.6	56.4	42.4	32.8	853	20.6	4.5			1.29	
1.0	2.07	0.20	10	16.9	145.8	80.7	18.8	31.0	808	13.1	0.4			1.42	
21.2				15.7	112.8	64.5	18.8	27.0	1709					1.44	
21.7	3.34	0.34	10	28.7	243.9	44.4	23.6	30.4	1522	21.3	9.5			1.29	瑞 穂
1.5	1.57	0.16	10	29.2	457.1	78.6	18.8	55.8	1796	7.6	0.4			1.60	
14.5	4.57	0.41	11	36.4	426.2	76.6	18.8	41.7	1668	35.4	3.9			1.26	瑞穂東
9.5	6.09	0.47	13	42.4	482.3	64.5	23.6	40.9	1786					1.46	
11.5	2.00	0.26	8	19.9	115.0	30.2	30.2	20.8	1149	28.6	2.5			1.48	上南部
6.5				16.9	112.2	48.4	48.4	23.5	1164	8.6	0.2			1.67	
0.7				17.5	140.2	131	23.6	28.8	1165		0.2			1.58	
3.0	2.94	0.26	11	18.2	137.4	72.6	23.6	26.9	847	17.2	2.5			1.13	下南部
2.5				11.5	92.5	52.4	9.4	28.4	679	8.4	0.4			1.41	
1.7	1.72	0.13	13	12.0	78.5	58.5	28.3	23.5	831	12.8	2.9			0.98	下南部北
0.2	1.50	0.12	9	9.9	92.5	62.5	14.1	33.3	714	7.6	0.4			0.90	
1.2				6.4	72.9	32.3	14.1	40.9	498		0.4			1.00	
2.5	6.74	0.61	11	30.8	309.5	80.6	61.2	37.3	1391				5.4		下南部南
6.5	1.80	2.26	7	26.9	263.6	84.7	47.1	34.9	1386				5.5		
7.5				27.0	277.6	103	51.8	36.6	1375				5.8		
2.9	2.24	0.18	12	9.8	140	26	19	51	870		46.8	16.5	42.0		倉沼南
3.3	0.24			4.0	84	19	14	75	600		3.9	2.0			
3.4	0.27			4.8	16	3	7	13	610		20.4	4.2			
	7.64	0.61	12.5	26.2	196	41	32	27	1783			15.0	52.0		忠別南
	3.39	0.34	9.9	25.0					2185						
5.6				19.4	96	25	16	17.8	830					1.32	中 央
2.0				24.4	249	69.6	17.8	52	1400						
0.8				25.1	325	97.3	14.1	66	1310						
2.0				17.4	224	75.7	14.5	69	1320						
2.8				26.3	255	26.7	27.7	42	1360						
5.0				25.6	313	71.8	13.6	58	990						
10.8				23.0	288	98.7	15.5	67	960						
6.25	3.44	0.37	9.3	23.8	162	20	24	24.3						1.37	神 楽
3.13	3.52	0.30	11.7	31.3	233	25	23	26.6						1.52	
2.50	2.63	0.09	29.2	15.0	69	8	22	16.4						0.42	
5.6	5.72	0.40	14.3	23.8	118	28	27	17.7	856					1.41	西瑞穂
1.9	7.00	0.47	14.9	27.5	232	51	9	30.3	1187					1.72	

地点番号 — 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布						pH		
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O	KCl	
W40-3	25~50	6.1	1.6	8.6	35.8	54.0	HC								5.7	4.6
	-4 50~80	3.1	4.8	18.4	31.7	45.1	HC								5.5	4.1
W45-1	0~20	11.1	5.6	17.9	33.1	43.4	LiC								5.9	4.9
	-2 20~35	3.7	12.9	17.7	29.5	40.0	LiC								5.8	4.5
	-3 35~70	0.3	24.4	28.3	33.1	14.2	L								5.7	4.4
W48-1	0~15	8.4	14.7	24.2	38.3	22.8	CL								5.8	5.1
	-2 15~30	11.5	9.5	20.3	35.3	34.9	LiC								6.1	5.2
	-3 30~55	0.7	33.8	25.1	19.6	21.5	SCL								6.1	5.1
W103-1	0~23	13.0	17.5	14.7	27.9	40.0	LiC	97.7	2.56						4.9	4.7
	-2 23~55	3.5	30.6	13.7	31.7	24.0	CL	143.0	2.80						5.2	4.9
	-3 55~	3.0	18.8	13.8	38.7	28.7	LiC								5.2	4.7
W300-1	0~17	3.4	19.2	15.2	39.9	25.7	LiC	127	2.58	49.3	27.3	23.4	50.7		5.3	
	-2 17~		25.9	19.3	28.0	26.8	LiC	157	2.65	59.6	35.6	4.8	40.4		5.4	
W301-1	0~15	7.9	53.4	19.5	13.9	13.3	SL	116	2.63	44.0	42.6	13.4	56.0		5.6	
	-2 15~29	5.3	26.9	37.3	22.8	13.0	L	114	2.65	43.0	50.0	7.8	57.0		5.7	
	-3 29~															
W302-1	0~15	6.38	41.4	14.6	25.7	18.3	CL	114.3	2.63						5.5	5.0
	-2 15~40	4.08	41.3	20.6	29.5	8.3	L	105.4	2.86						5.7	4.9
	-3 40~	1.77	56.6	12.8	22.1	8.4	SL								5.4	4.8
TH102-1	0~17	4.8	8.0	15.5	44.9	31.5	LiC	110	2.7	41	53	6			5.8	4.7
	-2 17~35	1.0	8.2	13.8	44.2	33.8	LiC	156	2.9	55	42	3			4.7	3.7
	-3 35~	0.7	7.0	9.5	28.2	55.3	HC	133	3.0	45	44	11			4.5	3.6
TH108-1	0~27	8.4	12.1	37.5	28.4	22.0	CL	79	2.6	31	63	6			5.2	4.1
	-2 27~50	0.7	13.1	42.0	29.7	15.1	CL	149	2.8	54	43	3			5.7	4.2
	-3 50~	0.4	21.9	37.1	25.6	15.4	CL	161	2.7	59	39	2			5.5	4.0
TH109-1	0~18	2.3	35.1	46.3	13.4	5.2	SL	118	2.7	43	25	32			5.1	3.8
	-2 18~30	2.3	2.6	61.0	26.5	9.9	L	100	2.8	36	46	18			5.5	4.2
TH110-1	0~13	8.0	11.4	23.4	34.3	30.9	LiC	57	2.6	22	73	5			5.2	4.2
	-3 25~40	4.7	9.3	8.7	37.6	44.4	LiC	93	2.8	33	63	4			5.1	3.7
TH111-1	0~18	6.5	3.9	21.1	36.0	39.0	LiC	89	2.7	34	61	5			5.0	3.9
	-3 23~40	3.3	0.4	19.3	38.7	41.7	LiC	102	2.7	37	60	3			4.8	3.8
TH113-1	0~13	11.2	8.0	22.6	31.7	37.3	LiC	83	2.6	32	62	6			5.1	3.9
	-3 24~32	52.8						41	2.1	20	76	4			5.1	3.8
	-4 32~	71.2						18	1.8	10	83	7			4.6	3.7
TH201-1	0~14															
	-2 14~32															
	-3 32~															
TH202-1	0~14	3.6	13.3	21.3	34.6	30.8	LiC	88.0	2.60	34.0	66.0	0.0	66.0		5.3	
	-2 14~37	5.4	9.3	19.9	37.3	33.6	LiC								5.5	
	37~73	0.4	10.1	21.5	40.0	28.4	LiC								6.4	
TH203-1	0~14	4.7	8.8	21.4	37.8	32.0	LiC	71.0	2.60	27.0	69.0	4.0	73.0		5.1	
	-2 14~55	1.7	12.1	29.6	24.4	34.0	LiC	100		38.0	62.0	0.0	62.0		4.9	
	-3 55~	0.7	14.1	31.6	22.2	32.0	LiC								4.8	
TH204-1	0~19	18.3	10.8	15.4	38.7	35.1	LiC	78.2							5.0	
	-2 19~46						LP	65.4							4.6	
	3 46~						LP									
TH205-1	0~23	0.1	7.8	15.6	37.6	39.1	LiC	83.9							4.9	
	2 23~44		8.7	11.3	45.7	34.2	SiC	65.1							5.0	
	-3 44~75															
	-4 75~															
TH206-1	0~14	0.1	2.7	7.1	31.4	58.9	HC	95.9							5.0	
	-2 14~43		2.2	6.3	34.1	57.3	HC	98.3							4.9	
	-3 43~82															



地点番号 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布					pH				
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O	KCl		
TH206-4	82~																
TH207-1	0~15	5.7	6.2	16.3	42.4	35.1	LiC	88.7								5.2	
	-2 15~45															5.4	
	-3 45~																
TH208-1	0~20	13.9	10.5	13.4	37.6	38.6	LiC	88.0								5.2	
	-2 20~40	14.9	10.0	12.1	37.8	40.1	LiC									5.1	
	-3 40~																
TH209-1	0~16	3.5	11.1	17.5	35.9	35.6	LiC	89.0								5.6	
	-2 16~48		3.4	12.3	35.2	49.1	HC									4.9	
	-3 48~																
TH210-1	0~17	6.1	26.5	25.4	28.0	20.1	CL									5.2	4.5
	-2 17~27	6.2	42.0	12.5	13.0	32.5	LiC									5.1	4.2
TH211-1	0~18	18.2	12.3	21.0	34.9	31.8	LiC	87.0	2.48	35.0	57.3	7.7				5.5	
TH212-1	0~16	4.3	43.4	17.8	21.8	17.0	CL	86.5	2.70	32.1	57.4	10.4				5.4	4.7
	-2 16~34	3.7	39.7	22.9	17.0	20.4	SCL									5.7	4.7
	-3 34~51		20.6	14.6	26.5	38.3	LiC									5.1	4.3
	-4 51~67		4.4	11.2	44.4	40.0	LiC									4.9	3.7
TH213-1	0~13	3.6	16.2	41.6	25.2	17.0	CL	111	2.50							5.7	5.1
	-2 13~39	1.3	12.3	66.6	13.8	7.3	SL	105	2.67							6.0	5.9
TH214-1	0~20		20.7	17.2	31.6	30.5	LiC										
	-2 20~						LP										
TH215-1	0~17		29.9	23.5	22.7	23.9	CL										
	-2 17~32		1.5	8.5	14.5	75.6	HC										
TH216-1	0~20		28.4	27.1	25.9	18.6	CL										
	-2 20~		61.7	16.0	15.2	7.0	SL										
TH217-1	0~15		12.5	22.9	32.8	31.8	LiC										
	-2 15~23		15.8	24.9	35.6	23.7	CL										
	-3 23~																
N81-1	0~13	6.8	12.1	45.1	24.2	18.6	CL	81.6	2.67	30.6	42.4	27.0				4.9	4.1
	-2 13~28	7.5	9.6	46.7	29.7	14.0	L	100	2.58	39.1	55.4	5.5				5.1	4.2
	-3 28~51	5.2	2.2	57.9	33.5	6.4	SL	102	2.65	38.5	54.0	7.5				5.3	4.2
	-4 51~78	0.8	15.8	61.6	16.7	5.9	SL	106	2.86	37.3	38.2	24.5				5.1	3.9
	-5 78~	1.0	3.5	55.6	27.8	13.1	L	107	2.80	38.3	51.7	10.0				5.2	3.9
N101-1	0~11		6.5	46.0	20.5	27.0	LiC										
	-2 11~26		7.0	46.0	20.0	27.0	LiC	94.4		37.8	58.4	3.8					
	-3 26~32		7.0	48.5	19.0	25.5	SC	85.2		33.8	61.5	4.7					
	-4 32~52		2.0	31.5	33.0	33.5	LiC	89.8		35.3	58.7	6.0					
N102-1	0~20		17.0	45.5	16.0	21.5	SCL										
	-2 20~33		32.0	41.5	8.0	18.5	SCL	134		50.8	45.0	4.2					
	-3 33~75		26.0	46.0	8.5	19.5	SCL	107		41.1	45.9	13.0					
N103-1	0~10		30.5	32.5	15.5	21.5	SCL										
	-2 10~32		26.0	44.5	11.0	18.5	SCL	103		40.1	48.6	11.3					
N104-1	0~12		17.0	42.5	18.5	22.0	SCL										
	-2 16~33		4.0	47.5	20.5	28.0	LiC	68.9		27.7	65.9	6.4					
	-3 33~60		4.0	31.0	35.5	30.0	LiC	77.0		30.1	59.0	10.9					
	-4 60~90		19.0	62.0	9.0	10.0	SL	100		38.1	58.0	3.9					
N105-1	0~16		3.5	31.5	29.5	35.5	LiC										
	-2 16~30		4.0	30.0	31.5	34.5	LiC	98.5		39.1	58.6	2.3					
	-3 30~50		22.0	28.0	26.0	24.0	CL	129		48.4	46.5	5.1					
N106-1	0~15		15.5	35.5	24.0	25.0	LiC										
	2 15~27		13.5	35.0	23.0	28.5	LiC	122		47.6	48.8	3.6					
	-3 27~57		12.5	39.5	21.0	27.0	LiC	125		47.9	48.2	3.9					
N107-1	0~13		9.0	37.0	27.5	26.5	LiC										





地点番号 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布					pH	
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O
N107-2	13~30		7.5	37.5	25.0	30.0	LiC	107		41.8	56.9	1.3		
	-3 30~52		2.0	33.5	32.5	32.0	LiC	97.0		36.6	61.0	2.4		
N108-1	0~14		15.0	50.0	17.0	18.0	SCL							
	-2 14~25		14.5	49.5	15.0	21.0	SCL	112		43.2	55.0	1.8		
	-3 25~30		14.0	66.5	8.0	11.5	SL	105		39.8	49.6	10.6		
N109-1	0~19		14.0	44.0	17.0	25.0	SC							
	-2 19~32		12.0	40.0	22.5	25.5	LiC	110		42.4	56.1	1.5		
	-3 32~42		1.5	37.5	33.0	28.0	LiC	100		38.1	60.0	1.9		
N110-1	0~15		13.0	40.0	33.5	13.5	L							
	-2 15~39		12.0	35.0	25.0	28.0	LiC	95.1		37.0	61.1	1.9		
	-3 39~50		2.0	32.5	32.0	33.5	LiC	75.3		29.5	66.9	3.6		
N111-1	0~15		16.5	34.5	21.5	27.5	LiC							
	-2 15~32		18.0	36.5	19.5	26.0	LiC	95.4		38.1	60.6	1.3		
	-3 32~55		17.0	40.5	17.0	25.5	SC	80.7		32.3	66.4	1.3		
N112-1	0~15		22.0	46.5	13.0	18.5	SCL	113		43.9	54.1	2.0		
	-2 15~27		28.5	42.0	12.0	17.5	SCL	134		48.6	23.6	27.8		
	-3 27~40		81.0	11.0	2.0	6.0	LS							
N113-1	0~18		12.0	41.0	19.0	28.0	LiC							
	-2 18~40		14.0	66.0	7.0	13.0	SL	93.8		49.7	46.9	3.4		
	-3 40~75		62.0	32.0	3.0	3.0	S	94.7		41.8	37.7	20.5		
N114-1	0~15		16.5	36.5	21.5	25.5	LiC							
	-2 15~25		16.0	39.0	17.0	28.0	SC	106		37.2	59.1	3.7		
	-3 25~33		1.5	26.5	33.0	39.0	LiC	124		37.4	60.3	2.3		
N115-1	0~15		10.0	45.5	18.5	26.0	SC							
	-2 15~21		12.0	46.5	17.0	24.5	SCL			40.4	57.3	2.3		
	-3 21~25		12.0	64.0	33.0	13.0	SL			45.4	48.7	5.9		
N116-1	0~18		6.0	41.0	25.0	28.0	LiC							
	-2 18~35		6.5	35.5	29.0	29.0	LiC	103		40.0	58.5	1.5		
	-3 35~50		7.0	60.0	21.0	12.0	SL	108		40.6	56.7	2.7		
N117-1	0~14		4.0	34.0	26.5	35.5	LiC	73.0		29.3	67.7	3.0		
	-2 14~25		9.0	29.5	24.5	37.0	LiC	87.2		34.2	62.7	3.1		
N118-1	0~12		22.5	37.0	17.5	23.0	SCL	106		40.5	57.5	2.0		
N119-1	0~13		10.5	44.0	25.0	25.0	LiC	96.7		37.7	61.0	1.3		
	-2 13~26		10.0	46.5	20.0	23.5	CL	103		39.8	58.2	2.0		
	-3 26~35		16.5	66.5	7.0	10.0	SL	102		37.2	54.4	8.4		
N120-1	0~14		15.0	43.0	20.0	22.0	CL	95.1		36.5	60.2	3.3		
N121-1	0~14		13.5	45.5	19.0	22.0	SCL	99.1		39.2	56.1	4.7		
	-2 14~27		14.0	43.0	21.0	22.0	CL							
N122-1	0~14		6.5	36.5	25.0	32.0	LiC	93.3		35.8	62.5	1.7		
	-2 14~25		6.0	41.0	26.5	26.5	LiC	126		46.8	51.8	1.4		
	-3 25~70		9.0	40.5	22.0	28.5	LiC	119		43.9	52.1	4.0		
N123-1	0~15		20.0	41.5	15.0	23.5	SCL	119		45.7	49.8	4.5		
	-2 15~45		20.0	43.0	15.0	22.0	SCL	121		46.2	48.5	5.3		
N124-1	0~20		17.5	40.0	19.0	23.5	SCL	102		39.5	51.6	8.9		
	-2 20~40		17.5	40.0	16.5	26.0	SC	105		41.7	56.0	2.3		
	-3 40~		74.0	14.0	6.0	6.0	LS							
N125-1	0~18		13.0	41.0	22.0	24.0	CL							
	-2 18~34		11.5	39.0	24.5	25.0	LiC	101		38.9	55.1	6.0		
	-3 34~55		2.0	35.0	43.5	19.5	CL	101		37.4	54.9	7.7		
N126-1	0~17		9.5	36.0	26.5	28.0	LiC							
	-2 17~30		17.0	39.0	23.5	20.5	CL	122		46.8	51.8	1.4		
	-3 30~70		2.0	24.0	42.5	31.5	CL	81.6		33.0	63.1	3.9		
N127-1	0~14		5.0	43.0	27.0	25.0	LiC							



地点番号 — 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布					pH		
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O	KCl
N127-2	14~40		5.0	44.0	28.0	23.0	CL	111		42.7	55.6	1.7			
	40~55		7.0	55.0	20.5	17.5	CL	97.8		36.6	54.5	8.9			
N128-1	0~18		25.0	45.5	15.0	14.5	SL								
	18~26		25.0	44.5	13.5	17.0	SCL	126		47.4	44.8	7.8			
N129-1	0~13		12.5	49.5	22.5	15.5	CL								
	13~27		12.0	49.0	24.0	15.0	CL	114		43.2	48.0	8.8			
N130-1	0~22		6.5	53.5	23.5	16.5	CL								
	22~34		8.0	58.0	17.5	16.5	SCL	121		46.8	48.9	4.3			
	34~43		7.0	63.0	15.0	22.7	SCL	116		43.9	50.8	5.3			
N131-1	0~12	2.1	22.8	46.1	18.6	12.4	SL	112	2.60	43.0	43.0	14.0	57.0	5.1	
	12~25	1.9	22.4	46.4	20.5	10.6	SL	122	2.60	47.0	50.0	3.0	53.0	5.1	
N132-1	0~15		34.0	48.0	18.0	15.0	SCL								
	15~24		38.0	49.0	18.0	17.0	SCL	122		45.7	49.8	4.5			
	24~		88.0	67.5	14.0	15.5	SCL	112		42.0	48.8	9.2			
N133-1	0~12		34.0	43.0	7.5	15.5	SCL								
	12~26		38.0	40.0	10.0	12.0	SL	109		40.2	43.6	16.2			
	26~43		88.0	8.0	1.0	3.0	S	134		48.7	21.4	29.9			
N134-1	0~15		10.0	50.5	18.0	21.5	SCL								
	15~20		9.0	49.0	20.0	22.0	CL	97.1		32.7	55.8	11.5			
	20~29		5.5	51.5	25.5	17.5	CL	112		42.8	53.3	3.9			
	29~44		26.0	47.0	12.0	15.0	SCL	114		43.8	51.3	4.9			
N135-1	0~15		9.0	38.0	28.0	25.0	LiC								
	15~32		9.5	37.5	24.5	28.5	LiC	111		43.4	55.0	1.6			
	32~75		3.5	42.5	27.5	26.5	LiC	63.6		26.4	67.5	6.1			
N136-1	0~15		7.0	37.0	28.5	27.5	LiC								
	15~40		5.5	39.0	25.5	30.0	LiC	97.6		38.7	59.5	1.8			
	40~60		10.0	34.0	28.5	27.5	LiC	118		43.9	54.1	2.0			
N137-1	0~14		4.5	30.5	32.5	32.5	LiC								
	14~25		5.0	31.0	30.0	34.0	LiC	89.6		35.9	63.0	1.1			
	25~55		7.5	41.0	25.5	26.0	LiC	87.4		37.5	61.0	1.5			
N138-1	0~15		5.0	35.0	28.0	32.0	LiC								
	15~25		4.5	32.5	30.0	33.0	LiC	96.1		37.6	60.7	1.7			
	25~35		3.5	32.0	29.0	35.5	LiC	91.2		35.4	61.9	2.7			
N138A-1	0~10		6.5	47.5	25.0	21.0	CL								
	10~25		8.0	45.0	21.5	25.5	LiC	92.5		36.5	61.6	1.9			
	25~40		6.0	41.5	26.5	26.0	LiC								
N139-1	0~15		10.5	48.0	19.5	22.0	SCL								
	15~25		8.5	48.0	19.5	24.0	SCL	99.0		38.9	58.9	2.2			
	25~50		15.0	49.0	16.0	20.0	SCL	96.2		38.0	59.7	2.3			
N140-1	0~15		10.0	37.5	23.0	29.5	LiC								
	15~30		10.0	36.0	24.0	30.0	LiC	95.2		37.5	61.2	1.3			
	30~47		13.0	38.0	24.0	25.0	LiC	94.7		36.5	61.7	1.8			
N141-1	0~15		9.0	41.0	23.0	27.0	LiC								
	15~35		9.0	39.0	24.0	28.0	LiC	92.2		37.3	60.7	2.0			
	35~53		18.0	32.0	26.5	23.5	CL	74.4		29.6	67.4	3.0			
N142-1	0~22		18.5	36.5	21.0	24.0	CL	98.6		37.3	54.8	7.9			
N143-1	0~16		18.0	44.5	18.0	19.5	SCL								
	16~30		26.0	39.0	17.5	17.5	SCL	115		43.6	53.3	3.1			
	30~40		16.5	43.5	24.0	16.0	CL	103		39.5	58.6	1.9			
N144-1	0~18		25.0	39.0	16.5	20.0	SCL	97.3		38.7	58.9	2.4			
	18~30		32.0	35.0	15.0	18.0	SCL	112		43.3	53.6	3.1			
	30~40		8.0	61.0	20.5	10.5	SL	81.8		31.7	62.3	6.0			
N145-1	0~14		8.0	46.5	20.0	25.5	LiC								



地点番号 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布					pH	
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O
N145-2	14~27		5.5	41.5	25.5	27.5	LiC	81.9		32.9	65.9	1.2		
	-3 27~43		5.5	37.0	26.5	31.0	LiC	85.6		33.1	63.6	3.3		
N146-1	0~13		13.0	39.5	18.5	29.0	LiC							
	-2 13~25		12.0	45.0	17.5	25.5	SC	94.0		36.6	61.9	1.5		
	-3 25~50		17.0	47.0	18.0	18.0	SCL	97.1		36.9	59.3	3.8		
N147-1	0~16		7.5	51.5	21.0	20.0	CL							
	-2 16~32		9.0	50.0	21.0	20.0	CL	103		39.5	59.1	1.4		
	-3 32~		10.0	52.0	23.5	14.5	L	122		45.1	52.1	2.8		
N148-1	0~18		19.1	44.5	36.4	0.0	L	95.5	2.62	36.3	56.7	7.0	5.3	4.7
	-2 18~40		26.3	44.7	29.0	0.0	SL						5.2	4.6
N149-1	0~16		4.5	44.5	25.0	26.0	LiC							
	-2 16~30		5.5	42.5	26.5	25.5	LiC	108		41.7	56.6	1.7		
	-3 30~42		6.0	58.0	20.0	16.0	CL	98.4		37.5	55.7	6.8		
N150-1	0~20		6.0	44.5	24.0	25.5	LiC							
	-2 20~41		6.0	46.5	23.5	24.0	CL	105		40.9	57.6	1.5		
	-3 41~76		2.0	43.0	35.0	20.0	CL	99.7		38.6	59.6	1.8		
N151-1	0~18		5.5	41.5	27.0	26.0	LiC							
	-2 18~24		5.0	43.0	26.5	25.5	LiC	88.7		35.0	58.9	6.1		
	-3 24~41		4.0	42.5	28.0	25.5	LiC	92.1		35.8	59.2	5.0		
	-4 41~80		66.0	27.5	1.5	5.0	LS	124		45.0	45.6	9.4		
N152-1	0~10		13.0	53.0	19.0	15.0	SCL							
	-2 10~21		15.0	55.0	14.0	16.0	SCL	131		49.4	45.9	4.7		
	-3 21~37		22.0	60.5	9.5	8.0	SL	142		53.0	39.2	7.8		
N153-1	0~10		19.0	46.0	19.0	16.0	SCL							
	-2 10~19		18.0	46.5	19.0	16.5	SCL	126		47.8	43.0	9.2		
	-3 19~25		27.0	43.5	16.0	13.5	SL	126		47.4	42.2	10.4		
N154-1	0~13		24.5	37.0	15.5	23.0	SCL							
	-2 13~20		16.0	52.0	16.0	16.0	SCL	129		49.5	43.5	7.0		
	-3 20~32		12.0	68.0	10.5	9.5	SL	108		39.8	44.5	15.7		
	-4 32~62		3.0	46.0	32.0	19.0	CL	91.3		34.6	50.6	14.8		
N155-1	0~20		8.5	42.5	22.5	26.5	LiC							
	-2 20~37		4.0	36.5	33.5	26.0	LiC	97.9		37.1	59.3	3.6		
	-3 37~65		13.0	27.0	24.5	35.5	LiC	74.4		29.5	61.7	8.8		
N156-1	0~15		10.0	43.0	23.5	23.5	CL							
	-2 15~23		10.0	47.5	19.5	23.0	SCL	100		41.3	56.9	1.8		
	-3 23~50		8.0	65.0	16.0	11.0	SL	102		38.0	54.9	7.1		
N157-1	0~18		9.0	45.0	21.0	25.0	LiC							
	-2 18~32		10.0	45.0	20.0	25.0	SC	98.7		38.7	59.6	1.7		
	-3 32~80		25.0	35.0	15.5	24.5	SCL	84.7		33.1	58.6	8.3		
N158-1	0~12		20.0	37.0	19.5	23.5	SCL							
	2 12~25		67.0	25.0	1.0	7.0	LS	136		50.1	44.6	5.3		
	-3 25~60		54.0	36.5	3.5	6.0	LS	138		50.1	42.7	7.2		
N159-1	0~15		8.0	51.0	19.0	22.0	SCL							
	-2 15~28		4.0	52.0	22.0	22.0	CL	107		41.7	57.1	1.2		
	3 28~60		6.5	43.5	30.5	19.5	CL	107		39.9	54.7	5.6		
	-4 60~95		92.5	3.5	0.5	3.5	S	131		47.3	13.8	38.9		
N160-1	0~25		6.0	44.0	23.0	27.0	LiC							
	-2 25~35		3.5	48.5	26.5	21.5	CL	82.5		33.1	65.7	1.2		
	-3 35~60		2.0	53.0	33.0	12.0	L	93.9		34.8	60.3	4.9		
N161-1	0~15		27.0	45.0	12.0	16.0	SCL	104		40.1	55.2	4.7		
	2 15~40		26.0	45.5	12.5	16.0	SCL	109		41.8	53.5	4.7		
	-3 40~		85.0	8.0	0.5	6.5	LS							
N162-1	0~17		17.0	35.0	21.0	27.0	LiC							



地点番号 層位	深さ (cm)	腐植 (%)	粒 径 組 成				土 性 国際法	三 相 分 布						pH	
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)		容積重 (g)	真比重 (g)	固相容積 (ml)	水分容積 (ml)	空気容積 (ml)	孔隙率 (%)	H <sub>2</sub> O	KCl
N162-2	17~35		29.0	32.5	16.5	22.0	SCL	96.1		38.2	59.0	2.8			
	35~		32.0	22.5	17.5	28.0	LiC	112		43.4	19.2	7.4			
N163-1	0~15		20.0	37.0	17.0	26.0	SC								
	15~30		26.5	30.5	16.0	27.0	SC	98.7		39.0	57.0	4.0			
	30~50		38.5	27.5	10.5	23.5	SCL	128		48.1	50.8	1.1			
N201-1	0~28														
	28~60														
	60~														
N202-1	0~13														
	13~23														
	23~58														
	58~92														
	92~														
N203-1	0~18														
	18~60														
	60~90														
	90~														
N204-1	0~17	16.6	22.5	28.0	26.8	22.7	CL	82.4		25.2	68.5	6.3	5.3		
	17~														
N205-1	0~14	12.4	22.6	30.4	22.5	24.5	CL	83.2	2.94	29.1	67.6	3.3	5.7		
	14~27	13.3	17.6	29.5	25.2	27.7	CL	93.9		29.4	70.5	0.1	5.8		
N206-1	0~10														
	10~45														
	45~														
N207-1	0~12	9.7	6.6	29.3	40.0	24.1	CL	82.9	2.59	32.0	60.5	7.5	4.8		
	12~27	10.7	6.7	32.2	30.9	30.2	LiC	84.6	2.62	32.3	60.7	7.0	5.5		
	27~41	21.5	10.1	25.6	39.2	25.1	LiC	51.7	2.35	22.0	65.0	13.0	5.5		
	41~72	10.5	18.5	40.7	21.5	19.3	CL	62.3	2.24	24.6	66.8	8.6	5.0		
	72~	4.5	39.9	40.0	10.1	10.0	SL	89.6	2.58	31.6	64.1	4.3	4.8		
KK 2-1	0~32	5.2					LiC						6.0	4.8	
	32~75	1.7					LiC						4.8	4.0	
	75~						HC								
KK 3-1	0~30	3.2					LiC						5.0	3.9	
	30~70						LiC						5.1	4.0	
	70~						HC								
KK 5-1	0~20						LiC						5.2	4.3	
	20~40						LiC						5.2	4.3	
	40~						LiC						5.2	4.2	
KK 9-1	0~25						LiC						6.0	4.9	
	25~60						LiC						5.7	4.1	
KK10-1	0~25	10.2					LiC						6.9	6.2	
	25~	1.0					LiC						6.9	6.0	
KK11-1	0~20						CL						5.8	5.0	
	20~						LiC						6.9	5.3	
KK20-1	0~23	3.0	13.2	14.0	36.2	36.6	LiC	104					5.1	4.2	
	23~70		18.0	17.0	39.3	25.5	LiC	140	2.65	53.0	36.5	10.5	47.0	5.0	4.0
	70~												4.4	4.0	
KK21	0~13	10.2	8.3	36.8	26.3	28.6	LiC						5.5	4.3	
	13~25	11.6	5.2	37.1	32.4	25.2	LiC						6.1	4.7	
	25~48	7.6	4.2	35.2	32.9	27.7	LiC						5.7	4.3	
	48~78		1.7	48.2	31.2	18.7	CL						5.8	4.4	
KK30-1	0~15	4.8	7.0	35.3	26.9	30.8	LiC						5.4	4.2	
	15~32		10.9	37.6	26.7	24.8	CL						5.9	4.7	

置換 酸度Y <sub>i</sub>	有機物			塩基交 換容量 (me/100g)	交換性塩基 100g中			飽和度 (%)	リン酸 吸収 係 数	アンモニア 態窒素 生成量 (mg/100g)	有効態リン酸 (mg/100g)		有効態 ケイ酸 (mg/100g)	遊離 酸化鉄 (mg/100g)	備考
	全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N比		CaO (mg)	MgO (mg)	K <sub>2</sub> O (mg)				プレイ2法	トル オーグ法			
12.0				25.3	188	23.9	19.7	33	1594		36.4				
3.2				23.7	314	38.1	25.9	57	1314		63.4				永山東
2.2				24.1	343	48.3	28.2	63	1366		36.1				
3.0	5.55	0.34	16	26.8	274	46.4	15.7	46	1510	15.6	69.2	8.5	17.6	1.15	射的
3.0	6.21	0.37	17	29.0	325	48.2	26.8	50	1340	17.1	57.5	13.8	23.5	2.09	
3.0	12.5	0.72	17	32.8	562	83.6	18.8	75	1460		27.2	7.7	25.7	1.74	
3.0	6.07	0.29	21	16.8	311	49.2	10.9	82	860		16.0	5.2	21.9	0.84	
4.0	2.63	0.14	19	8.9	211	29.4	8.9	103	510		21.5	4.6	18.3	0.43	
0.8	3.0			24.8	412	34	33	70	1270			25.0			西里
37.8	0.9			24.1	118	18	14	23	1470			0.3			
8.9	1.85			20.8	177	46	9	43	1160			3.7			江丹別
7.8				21.1	185	52	14	46	1130			4.0			
4.4				14.3	115	22	33	42	840			7.2			神居
8.4				9.9	59	42	13	32	720						
15.4				10.5	59	42	10	31	590						
0.3				21.8	306	22	33	58	1110			12.9			西丘
4.2				16.7	165	22	28	47	860			1.6			
0.2	5.9			41.7	1037	137	80	109	1090			121.0			神居古潭
0.4	0.6			26.2	544	71	38	92	940			43.2			
0.4				24.7	331	71	23	65	1210			16.0			豊里
0.6				14.3	115	161	12	88	850			4.8			
12.6				23.1	207	34	24	42	1060			5.7			拓北
33.9				20.0	39	6	7	10	1070			1.2			
38.1				16.8	39	8	11	13	1070						
3.1	5.92	0.36	17	30.9	239	85	11	44.2	1290		8.2			2.62	更新
0.6	6.73	0.44	16	38.9	390	159	16	60.4	1460		2.7			2.65	
4.4	4.41	0.31	14	32.1	199	148	16	48.8	1380		1.7				
2.6				13.1	94	171	9	95.3	790		1.7				
5.0	2.78	0.30	10	15.2	92	33	16	36.5	970		20.1			2.2	吉住
0.8				13.2	143	21	19	52.3	1250		1.5			3.6	